

第3回大会

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

報 告 書



【期 日】 平成29年10月7日（土）～8日（日）

【会 場】 茨城大学 水戸キャンパス （茨城県水戸市文京2-1-1）

【主 催】 茨城県教育委員会，茨城大学社会連携センター，茨城県生涯学習・社会教育研究会

【主 管】 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

【後 援】 福島県教育委員会，栃木県教育委員会，群馬県教育委員会，埼玉県教育委員会，千葉県教育委員会，神奈川県教育委員会，国立青少年教育振興機構，茨城県社会教育委員連絡協議会，茨城県公民館連絡協議会

【協 力】 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター
茨城県教育庁社会教育主事会

目 次

1	はじめに	1
2	大会テーマ及び日程	2
3	事業の実施体制	4
4	大会参加者集約結果	5
5	アンケート集計結果	6
6	事例発表協議メモ・メッセージボード集約結果	33
7	成果と課題	43

< 参 考 >

・第3回大会チラシ	47
・実行委員会委員等一覧	51
・新聞記事	53

1 はじめに

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会第3回大会は、平成29年10月7日、8日の2日間、茨城大学教育学部を会場として開催されました。1日目は334名、2日目は203名、2日間で延べ537名の参加者がありました。これまでの3年間で最も多くの参加者であったこと、学生など若い世代の参加者が増えたこと等を皆様にご報告させていただきます。

1日目は、心配された夜来の雨も受付が始まる頃にはやみ、2日間を通して好天で、まさしく研修日和でありました。

実践発表は、学校・家庭・地域の連携の取組が2会場、地域課題の解決に向けた取組が2会場、青少年教育が1会場で、それぞれ4発表、全体で20事例が発表されました。どの会場も充実した発表内容で、フロアで聴き入っていたみなさんとの間で活発な質疑応答がなされました。どの会場も優れた実践から学び取ろうとする参加者の熱意に溢れていたと思います。

夜の情報交換会も盛況で、各地の銘酒を酌み交わしながら日頃の苦労話や達成感を語り合い、課題や問題意識を共有するとともに、互いの健闘を称え合いました。

2日目は、国立大学法人茨城大学学長で気候変動研究の世界的権威として知られる三村信男先生による特別講演『国連持続可能な開発目標（SDGs）がめざすもの～世界と地域はどうつながっているのか～』でした。近年の常態化した異常気象の原因がいちいち納得がいく内容で、グローバルなレベルで進む危機に対して地球を持続可能にしていくために、いかにして地域というローカルな場で解決に向けて協働していくかが私たちに重い課題として投げかけられました。

続く全体会では、小グループに分かれて参加者間での出会いの時間が設けられ、前日からの発見と気づきに基づいて相互の対話がなされました。そして最後のクロージング・トークセッションでは、茨城大学副学長・全学教育機構長の木村競教授をコーディネーターに、茨城県高萩市教育長の小沼公道氏と栃木県教育委員会生涯学習課課長補佐の井上昌幸氏が登壇しました。両氏がそれぞれの立場から地域の現状と、この交流会の持つ意義と課題について問題提起したのを受けて、木村教授は各パネリストの問題提起を踏まえながら、今後のわれわれの行動指針を「つなぐ」という言葉で締め括りました。

以上のように、交流会は関係者の方々のご尽力、ご協力により多くの成果を収めて閉じることができたと認識しております。今後は交流会を通して得られた成果をそれぞれの地域、それぞれの機会や場で広げ育て、その結果をまた次の機会に持ち寄ってほしいと願っております。

最後に、本報告書の刊行に当たり、計画段階から実行委員会の中心となってお尽力下さった茨城県教育委員会生涯学習課の皆様、会場をご提供頂くなど様々な面でご協力を頂いた国立大学法人茨城大学の皆様、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのセンター長以下職員の皆様、国立青少年教育振興機構と各施設等の関係機関・施設の皆様、そして交流会にご参加下さった多くの皆様に対して心からの謝意を申し上げ、ご挨拶と致します。



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

実行委員長 菊池 龍三郎（茨城大学名誉教授）

2 大会テーマ及び日程

第3回大会テーマ

『社会教育の大きな波を起こそう!』

「学びを通しての地域活性化」の面で成果をあげている各都県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合う「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催し、関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場づくりの拠点となるとともに、対話・交流を通して地域課題解決の糸口となることをめざします。

大会日程

1日目 10月7日(土)

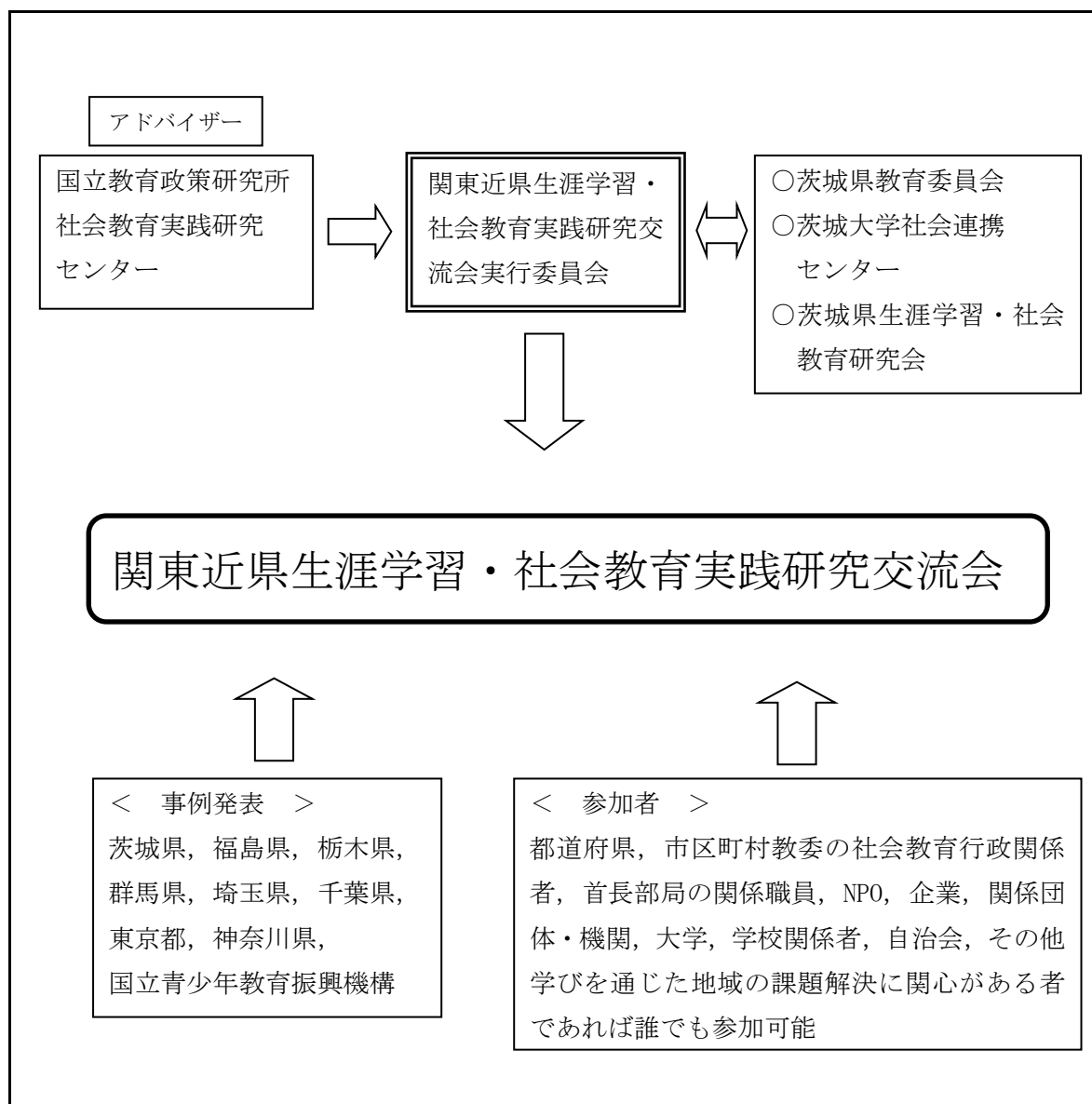
12:30	13:00	13:30	14:00	14:45	14:55	15:40	15:50	16:35	16:45	17:30	18:15	20:15
受付	オープニング	移動・休憩	事例発表 ①	移動・休憩	事例発表 ②	移動・休憩	事例発表 ③	移動・休憩	事例発表 ④	移動・休憩	情報交換会	
教育学部 B棟	D棟 201		B棟 203 ～ 208		B棟 203 ～ 208		B棟 203 ～ 208		B棟 203 ～ 208		大学生協 食堂	

2日目 10月8日(日)

8:45	9:30	11:00	11:30	12:00
受付	特別講演 『国連持続可能な 開発目標（SDGs）がめざすもの ～世界と地域はどうつながっているのか～』 国立大学法人茨城大学 学長 三村 信男 先生	全体会 関係者間 での出 会いと対話	クロージングトークセッション ＜コーディネーター＞ 茨城大学副学長・全学教育機構長 木村 競 氏 ＜登壇者＞ 茨城県高萩市教育委員会教育長 小沼 公道 氏 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 課長補佐 井上 昌幸 氏	
教育学部 B棟	D棟 201	D棟 201	D棟 201	

	学校・家庭・地域の連携①	学校・家庭・地域の連携②	地域課題の解決に向けた取組①	地域課題の解決に向けた取組②	青少年教育
	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D	会場 E
	【茨城県】	【茨城県】	【茨城県】	【茨城県】	【茨城県】
① 14:00 ～ 14:45	子どもたちの笑顔と輝きを求めて ～ぬかだサタースクールの実践から～ ぬかだの子どもを守り支える会 会長 成田敏行	北茨城市立図書館との 連携による学び ～高校生の実践より～ 県立磯原郷英高等学校 教諭 堀美智子	襲（ケ）の再生 「鯨ヶ丘商店会の活動」 ～県北芸術祭（アート）と商店街の関係～ 常陸太田市鯨ヶ丘商店会 会長 渡辺彰	コロッケで街おこし ～中心市街地活性化策として～ 龍ヶ崎まいんコロッケ 代表 吉田京子 龍ヶ崎市商工会 事務局長 大竹昇	継続できるエネルギーの源は 何か？ ～長期キャンプ体験 27 年の軌跡～ 鹿嶋市教育委員会社会教育課 係長 水野喜行
② 14:55 ～ 15:40	栃木市型教育システム 「どちぎ未来アシストネット」 ～ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり～ 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課 副主任兼社会教育主事 早乙女豊	今、学校・家庭・地域が子どもたちの ためにできること「チャレンジ手帳 ちよだっ子」の実践から ～2050 年の大人づくり～ 千代田市社会教育委員会 委員長 柿沼正博	【埼玉県】 コミュニティカフェは地域の要 ～おしゃべり + 飲食 = 課題解決の場～ 合同会社から（ハルシーカフェのら） 代表社員 新井純子	【東京都】 青少年の多様な体験活動の 場の提供 ～子どもの体験施設「こども未来創造館」 の企画から運営～ 足立区教育委員会事務局子ども家庭部 青少年課 係長兼社会教育主事 村上長彦	【群馬県】 チャンスフォー オール チルドレン in 赤城 ～生活習慣改善につながる体験活動 プログラムについて～ 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 梁河昌彦
③ 15:50 ～ 16:35	公民館・コミュニティ施設を利用 した「学びでつながる寺子屋事業」 （公財）四街道市地域振興財団 四街道市立四街道公民館 施設長 福本由香里	学校と地域が一体となった魅力 ある学校づくりを目指して 「おくのキャンパス コミュニ ティ・スクール」の取組 牛久市立牛久第二中学校 教諭 仲澤潤	【神奈川県】 冒険遊び場の運営を通じた 地域との関わり ～支える大人も遊んでいる～ ドリームプレイウィッツ管理運営委員会 委員長 湊谷敏夫	【千葉県】 障害のある方の生涯にわたる 学習の充実をめざして ～さわやか青年教室の事例を通して～ さわやかちば県民プラザ事業振興課 主査 福地健太郎 副主任 遠山宗利	【福島県】 幼稚園・保育園との連携による運動能力や 体力の基礎を養う体験と場の提供について ～教育事業「ばんだいこどもの森キッズ ランド」の実践を通して～ 国立磐梯青少年交流の家 総括企画指導専門職 葛岡丈治 企画指導専門職 大高晴行
④ 16:45 ～ 17:30	コミュニティ・スクールでふるさと 栗橋とともにある学校をめざして ～子どもたちが育ち 保護者や地域の方々が 輝き ひとつつながるために～ 久喜市立栗橋南小学校 教頭 朝武紀雄	地域から学校を核とした、 新たな人・街・学びへの取組 ～挑戦する学校は、元気な街をつくる源～ みらいスマイルコミュニティーズ みどりが丘小学校区 代表 鈴木介人	【東京都】 知的障害者の生涯学習と 生きる力について ～千代田区日曜青年教室＆自主サークル 「ハルマンハーブちよだ」の活動から～ 千代田区地域振興部生涯学習・スポーツ課 生涯学習指導員 工藤真由美	【福島県】 農を通じた自立型人間の育て方 ～福島県農業短期大学校～ 福島県農業総合センター農業短期大学校 教務主任 齋藤義雄	【福島県】 地域力を生かした青少年教育 への取組 ～地域力向上事業「まるごとふくしま冒険 キャンプ」を事例として～ 国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 西村孝幸

3 事業の実施体制



4 大会参加者集約結果

(単位：人)

都県	1日目 [10/7(土)]	2日目 [10/8(日)]	合計
福島県	6	5	11
茨城県	278	182	460
栃木県	12	3	15
群馬県	5	4	9
埼玉県	5	1	6
千葉県	13	3	16
東京都	9	3	12
神奈川県	3	0	3
岩手県	1	0	1
静岡県	1	1	2
大分県	1	1	2
合計	334	203	537

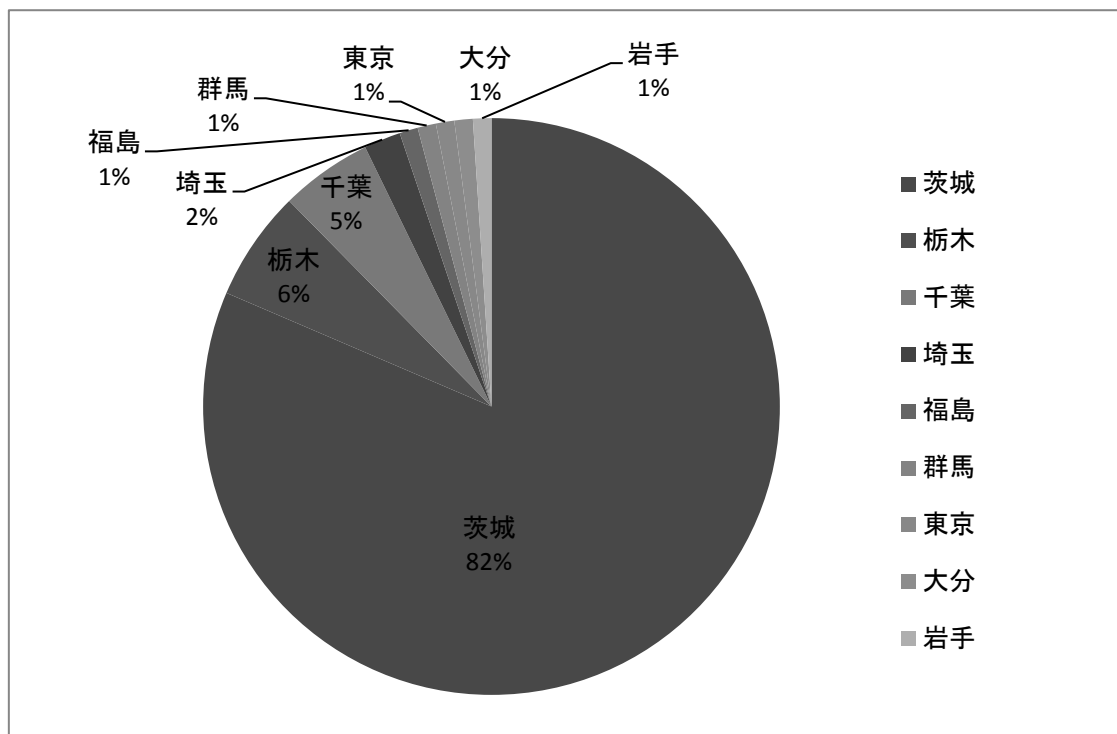
【参考】

	1日目	2日目	合計
第1回大会	314	168	482
第2回大会	331	184	515

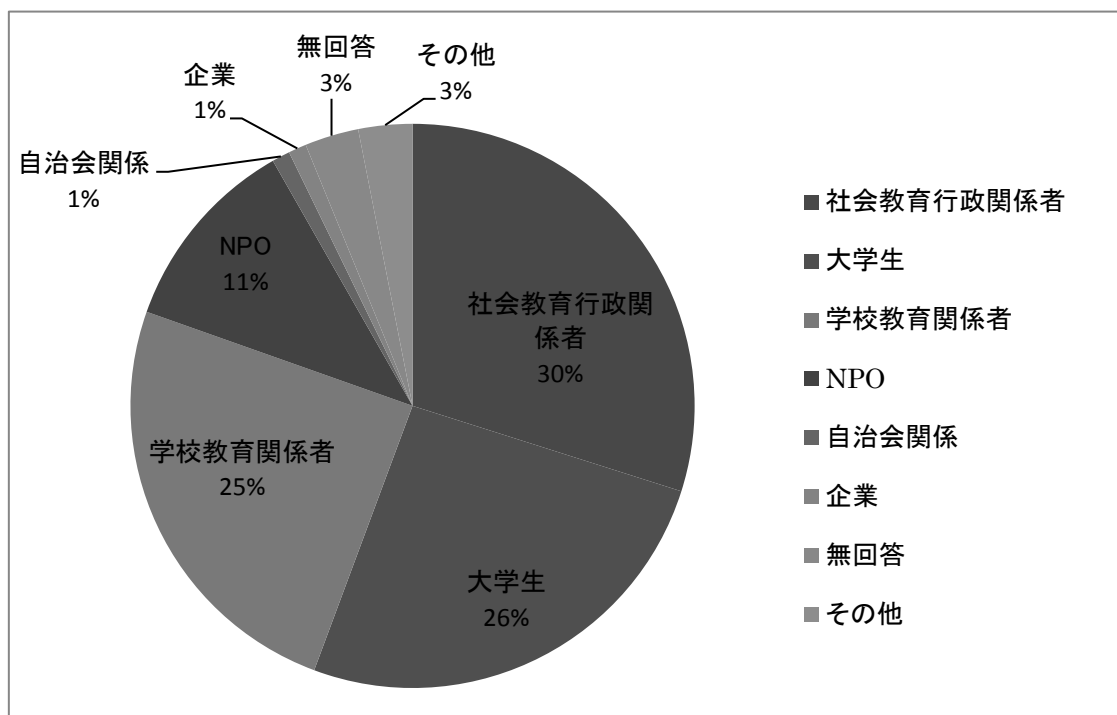
5 アンケート集計結果

アンケート回収数 97枚

(1) どちらから参加されましたか。



(2) 所属を教えてください。



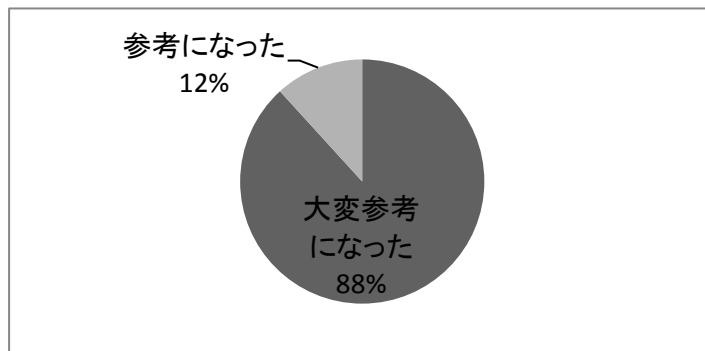
(3) 事例発表

① 14:00～14:45

会場A 学校・家庭・地域の連携①

子どもたちの笑顔と輝きを求めて ～ぬかだサタデースクールの実践から～
茨城県 ぬかだの子どもを守り支える会

- ① 学校・家庭・地域の連携を図り、「フラワータウンinぬかだをつくろう-まちを花で飾り行き交う人の心にも花を咲かせよう-」の花壇づくりの活動を通して、次世代を担う子ども達の豊かな心を育み、人と人とのよりよいつながりを深め、4つの力（地域力・家庭力・子ども力・学校力）から誇れるまちづくりを目指している。
- ② 本会の設立以来、7年間の変遷から、その成果と課題を紹介します。



- ・子どもたちの力はやはりすごい！
- ・地域の子も達や郷土への愛情がよく伝わってきました。温かさを感じました。
- ・児童の合唱の発表は、涙が出ました。
- ・とてもためになった。
- ・大人も子どもも大きく成長して地域を支える大きな力となっていて素晴らしいです。
- ・中学生が運営に参画していることが、持続可能な体制づくりの参考になった。
- ・高齢者主体の会の様な気がしてならない。子ども達は、大人の場の中で主体的に動く場がない場合に動けなくなるのではないかと感じる。
- ・すばらしかった。
- ・苦境をどうやって乗り越えたのかを具体的に知りたかった。
- ・大人から子ども達への地域のつながりが良かった。
- ・地に足ついた実践活動が定着していて、非常に感動した。
- ・継続している活動は素晴らしいと思った。具体的な内容をもっと聞きたかった。
- ・学校、家庭、地域、子供の4つの力を大事にしているのが良い。



会場B 学校・家庭・地域の連携②

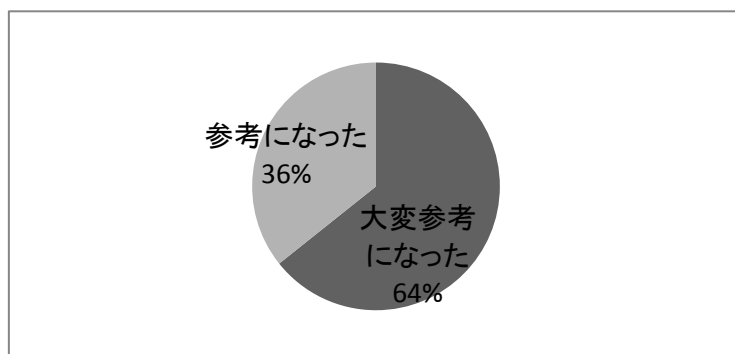
北茨城市立図書館との連携による学び ～高校生の実践より～

茨城県 茨城県立磯原郷英高等学校

今年度から北茨城市立図書館との協働により、以下の4つの活動に取り組みました。

- ① 資料検索のレファレンスの指導
- ② 本校生徒のおすすめ本のコーナー展示
- ③ お話し会での読み聞かせ
- ④ 生徒の学習活動の成果物の展示

この活動を通して、地域とともに高校生の学びが広がっていきました。



- ・高校生がとてもよくがんばっていました。
- ・高校生を受け入れる体制は、行政と学校側がより深いかわりをもたなければならない。
- ・図書館についてより身近に感じることができた。利用回数を増やせたらと思った。
- ・学校と公立図書館との取組の継続を期待。将来、成果と課題を聞きたい。
- ・地域間の関わり合いの大切さがわかるものだった。
- ・学生と教員が協力して様々な人と交流をしているところに感心した。
- ・青少年関係は、このところ様々な事業で声がかかるので大忙しですが、生の声が聞けて良かったです。



会場C 地域課題の解決に向けた取組①

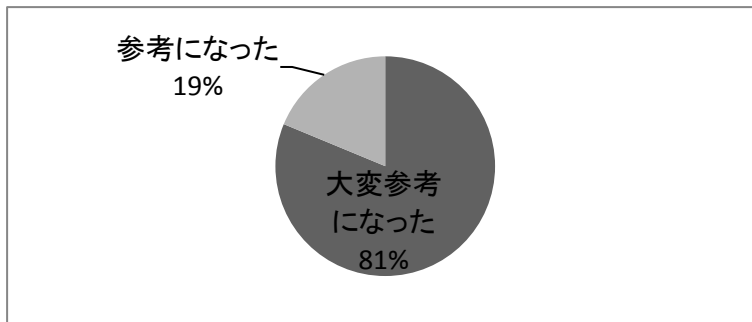
褻（ケ）の再生「鯨ヶ丘商店会の活動」 ～県北芸術祭（アート）と商店街の関係～

茨城県 常陸太田市鯨ヶ丘商店会

○ コミュニティーの変化と商店街の関係

商店街の衰退を「コミュニティーの変化」を切り口に読み解くと共に、商店街という現場の社会的変化の中から地域社会の問題点へと視野を広げる。

そんな中で、今後の商店街のあるべき姿を「コミュニティーの再生」をキーワードに、県北アートが地域に残したものを考える。



- ・常陸太田の商店街，一人が何店も…という考えを知り今後活かしていきたい。
- ・ある程度大きな（小さいとも言えるが）地域を全体としてとらえる視点を得ました。ありがとうございます。
- ・街の課題を時代背景や社会情勢と共に捉え，地域の縁が未来的展望と共に捉えられ，夢があって良かった。
- ・一度行ったことがあるのですが，どんな活動をしているのかわからなかったもので，おもしろかったです。
- ・商店街の移り変わりがとてもよく分かりました。常陸太田市の鯨ヶ丘商店街の取組から，今後目が離せないです。ありがとうございました。
- ・鯨ヶ丘商店街の魅力に気がついた。
- ・大学1年生の時に，鯨ヶ丘を訪れたことがあったのでなつかしかったです。
- ・行政の立場として，地域の方々の力は大きいなと感じました。どのように連携していけるのかについて，お聞きしてみたかったです。



会場D 地域課題の解決に向けた取組②

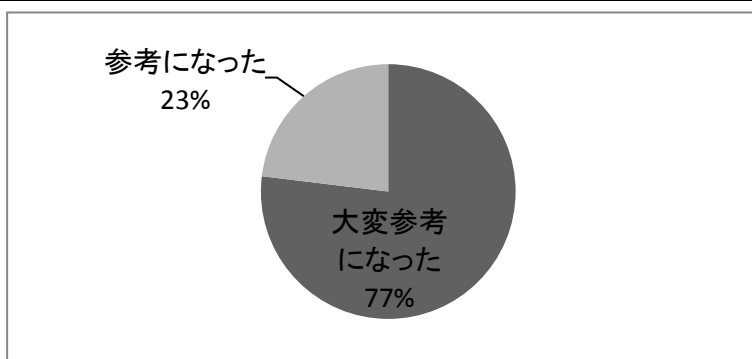
コロッケで街おこし ～中心市街地活性化策として～

茨城県 龍ヶ崎まいんコロッケ，龍ヶ崎市商工会

未来を担う子供たちに「心に残る手作りのものを」「大人になっても懐かしく思い出に残るものを」と，龍ヶ崎市商工会女性部が，手作りのコロッケを販売したのがきっかけです。

その後，街のお肉屋さんや飲食店も加わって，コロッケクラブ龍ヶ崎（加盟店 19 店舗）を組織し，手作りコロッケで街おこしがスタートしました。

自分好みの龍ヶ崎コロッケを見つけてみて！



- ・コロッケが有名だということを今回はじめて知りました。ぜひ食べに行きたいです。
- ・地元への思いが伝わってきました。
- ・コロッケを通じてまちおこしをスタートし、それが高齢者のいきがいくりになっていて素晴らしい。
- ・コロッケだけを推すのではなく、他の商品にもスポットライトを。
- ・女性初、高齢者といったキーワードがたくさんあってよかった。
- ・コロッケでまちおこしという発想がすごいと思ったし、興味深かったです。
- ・代表の吉田さんがすごくいきいきしていて感心しました。
- ・商工会が活性化すると思います。
- ・発表者が楽しそうでした。
- ・龍ヶ崎コロッケへの愛を感じました。「まず1個あげる」という点が学びになりました。



会場E 青少年教育

継続できるエネルギーの源は何か？ ～長期キャンプ体験 27 年の軌跡～

茨城県 鹿嶋市教育委員会社会教育課

平成3年、この事業はスタートしました。10泊という長期キャンプの実施を目指し、27年間に渡り開催されてきたことは奇跡的かもしれません。

文部省（当時）がその事業の必要性を説き、全国的な展開を図った事業であり、子どもたちには今なおこの種の事業が必要とされているにも関わらず、継続されている自治体はほとんど見当たりません。

四半世紀に渡り「継続されてきたエネルギーの源は何か？」について説明します。

大変参考
になった
100%

- ・ボランティア集めは大変だが、新規採用教員研修に組み込んでボランティアを集めていてとても良い取組だと思った。
- ・グループ協議で、実際に参加した方の話を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・27年間の事業継続は素晴らしい。また、人材の循環システムは参考になる。
- ・どの視点から見てもすばらしい事業で感動した。
- ・フロンティアアドベンチャーが続いていること自体がすごい。
- ・事業を継続するためには、関係者の熱意が必要だと改めて感じました。
- ・改めて、27年間事業を継続することの偉大さを実感しました。
- ・鹿嶋市の持続力がすばらしい。ぜひ、近隣自治体も復活を！



② 14:55～15:40

会場A 学校・家庭・地域の連携①

栃木市型教育システム「とちぎ未来アシストネット」

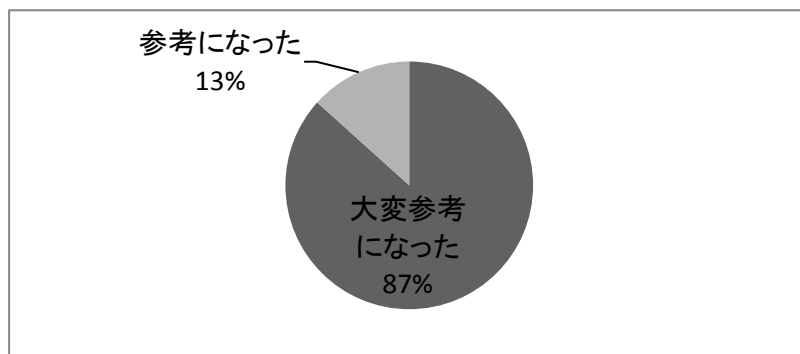
～ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり～

栃木県 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課

今年で6年目を迎えた本事業は、学校・家庭・地域の連携を、より組織的に発展させるために導入された教育システムです。

地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育むことを核に、学校・家庭・地域の連携で生涯学習を基盤とした社会を目指し、栃木市の人づくり・まちづくりを図っています。

学校支援の核となる地域コーディネーターの後継者の育成や、学校支援ボランティアの更なる増員が今後の課題となっています。



- ・学校現場を地域で助けるのは良いと思います。しかし、根本の解決も必要です。
- ・お金の問題も考えたい。
- ・行政が入り、それぞれWin-Winの関係を築いているところが素晴らしいです。
- ・とちぎアシストネットの取組が、大変参考になりました。
- ・アシストネットの推進体制についてよく学べた。



- ・システム化されたアシストネットについて、公民館が核になっていることが参考になった。
- ・学校、地域、家庭、子ども全てにとって意義のあるものであると感じました。
- ・栃木市の教育委員会がきちんと組織化してくれてできているのが素晴らしいと思いました。

会場B 学校・家庭・地域の連携②

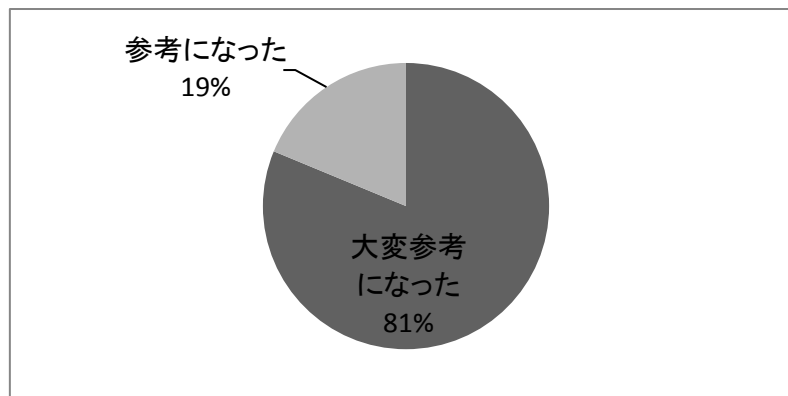
今、学校・家庭・地域が子どもたちのためにできること

「チャレンジ手帳ちよだっ子」の実践から ～2050年の大人づくり～

群馬県 千代田町社会教育委員会

千代田町では、すべての子どもたちが「生きる力」を育むために何が必要かを検討し、「色々な体験をすること」を推奨することとし、「チャレンジ手帳」を作成し、「学校・家庭・地域」をつなぐツールとして活用しております。

3年を過ぎた今、子どもはもちろん保護者・先生方、また地域の方々も体験活動を通じ生涯学習の大切さを実感しております。そして、2050年の大人づくりを目指し、町づくりを目指しております。



- ・チャレンジ手帳の成果が目に見えることで、児童のやる気を出せると思います。
- ・社会教育委員の熱心な取組は圧巻でした。
- ・「社会教育委員の見える化」に取り組もうと思っているので、参考になりました。
- ・チャレンジ手帳は素晴らしい取組だと感じた。
- ・チャレンジ手帳の活用が継続されており、町全体の取組となっているところが良かったです。
- ・手帳のよさを知りました。集まっていく印（マーク）に喜ぶ子どもの様子が目に浮かびました。教育委員さんからのコメントが素晴らしいと思いました。
- ・心のチャレンジ手帳は素晴らしいと思いました。

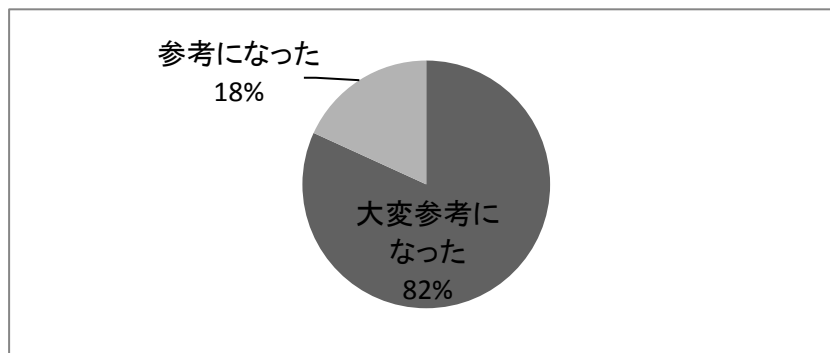


会場C 地域課題の解決に向けた取組①

コミュニティカフェは地域の要 ～おしゃべり + 飲食 = 課題解決の場～

埼玉県 合同会社のら（ヘルシーカフェのら）

- ① ヘルシーカフェのやっていること 「飲食」「販売」「広場」「情報提供」
「地域への協力」「ワークショップ」「大学生による子ども食堂」「通称『おやじ講座』」
- ② ヘルシーカフェに集う人々
- ③ ヘルシーカフェ設立の経緯や課題など
公民館（社会教育）との出会い、コミレス（コミュニティレストラン）の発想、
コミレスは子育て支援の要、お互いさと学びあい
『住んでうれしい街にするためにやれることはたくさんあります』



- ・新井さんのような想いをもったパワーのある人が地域にたくさんいることが大切なのだろうと思いました。
- ・ボランティアとして、ここまでのことをできることが素晴らしい。
- ・新井さんの想いがよく伝わった。最後の「（課題に）気づいちゃったから、やらざるを得ない」という言葉に感動した。
- ・「お金」ではない価値観。マンパワーが素晴らしい。学校にこの価値観がないため偏差値教育となるが、ここは「変わらない」を「変えない」と社会はもたない。



会場D 地域課題の解決に向けた取組②

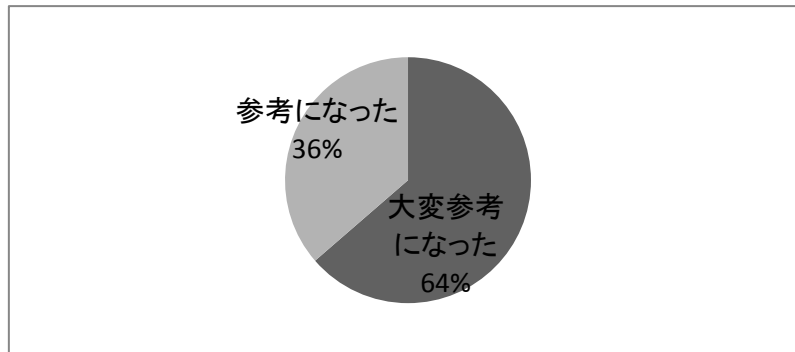
青少年の多様な体験活動の場の提供

～子どもの体験施設「子ども未来創造館」の企画から運営～

東京都 足立区教育委員会事務局子ども家庭部青少年課

平成6年にオープンした「こども科学館」の展示終了後のリニューアル計画において、新たな発想の子どもの体験型施設として計画を検討し、5年間の準備を経て平成24年に「こども未来創造館」としてオープンした。

施設のねらいを「様々な体験や遊びを通して成長できる」ことに置き、全体で年間4千回程度の体験事業を実施している。多くの利用者があるが、区外からの来場者が多く、足立区の子どもの体験機会確保の工夫をしている。



- ・施設の充実が，未来志向の方向性であると感じた。
- ・専門職員の力が発揮された，施設事業設計と運営が素晴らしい。
- ・施設のコンセプトが明確で大変魅力的だと感じました。
- ・多様な事業が展開され，区のPRになっていると感心した。そのサービスが他県でも実践できると良いと思った。
- ・すばらしい施設を有効に活用しているのが良いと思う。事業数が多いのが最高ですね。
- ・足立区の取組で子どもの成長が図られていてすばらしいです。
- ・都市の施設の特徴がわかった。
- ・経済格差によって子どもたちの経験値に差が生まれてしまうことは知っていたが，東京でも起こっているとは知らず学ばせていただきました。



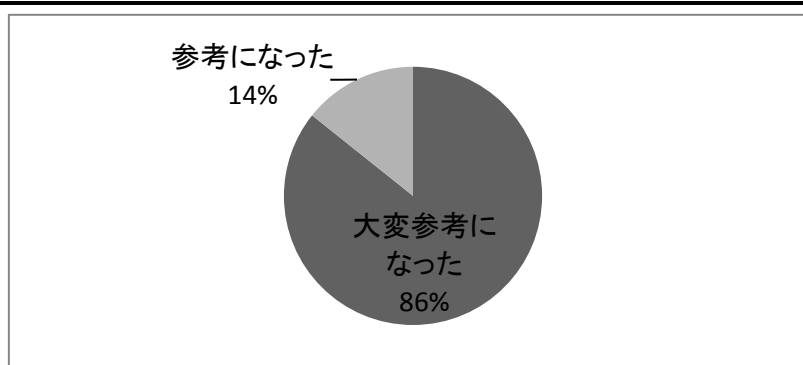
会場E 青少年教育

チャンス フォー オール チルドレン in 赤城

～生活習慣改善につながる体験活動プログラムについて～

群馬県 国立赤城青少年交流の家

「チャンス フォー オール チルドレン in 赤城」は，経済的に困窮した家庭の子どもを対象に，自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い，子どもたちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身に付けることを目指したものである。ひとり親家庭の親子で，宿泊キャンプや日帰りキャンプ（年間 10 回）に参加し，自然体験や食育，工作体験，学習などの活動を通して，親子の交流も図っている。



- ・一人親家庭への支援事業について、知ることができた。
もっともっと色々なことができて、幅が広げられる分野だと感じた。
- ・一人親家庭を対象とした「あかぎグローアップキャンプ」は、とても有効なプログラムだと思いました。
- ・国立青少年教育施設の生きた情報を聞くことができ、参考になった。
- ・キャンプを個人の力でやっていくところが良いと感じた。
- ・現代の子ども達にはない活動の場を設けることの大切さがわかるものだった。
- ・一人親を対象にした珍しい試みを聞くことができ、参考になった。
- ・青少年の家が行っている母子家庭への事業がとても参考になりました。



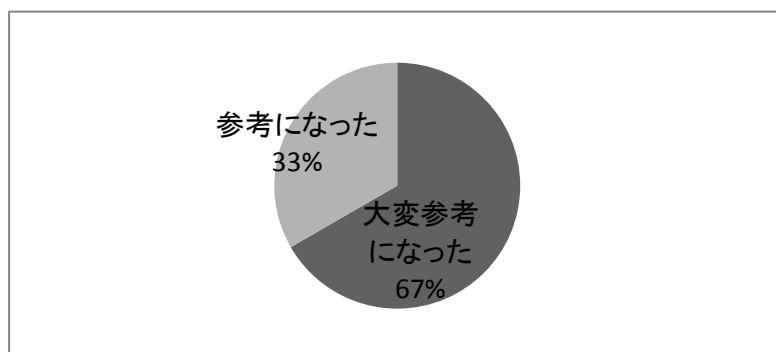
③ 15:50~16:35

会場A 学校・家庭・地域の連携①

公民館・コミュニティ施設を利用した「学びでつながる寺子屋事業」

千葉県 (公財) 四街道市地域振興財団 四街道市立四街道公民館

平成24年8月、「公民館だから出来ること」「学生の得意な内容を広げてみる」を主軸に、夏休み子ども達の宿題を見てあげてはどうか？との企画案から、寺子屋事業がスタート。「学ぶ」というテーマを主軸に非日常空間で、異世代・異地域の学生や大人と参加者の小中学生との交流で化学反応が発生。学生達の「ボランティア精神」を育み成長する過程に、職員が主催者の立場で寄り添いサポート。様々な人との共同参画環境が4施設に拡大。26年10月に「チームよつてら」が発足。27年度「ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）」を共に受賞。チームよつてらは、28年度「総務省ふるさとづくり大賞総務大臣賞」を受賞。



- ・公民館を活用した学校、大学の連携がうまくいっている。当法人でも大学（学生）との連携を図る事業を検討したい。
- ・各ステークホルダーのメリットについて詳しく知りたかったので、具体的な数値や指標で示していただくともっと良い。
- ・学生スタッフの参加など参考になった。



- ・公民館を利用した，高校生，大学生とのボランティア活動で，とても素晴らしい事例だと思いました。
- ・学生ボランティアの活動がしっかりしていて素晴らしい。
- ・異年齢交流の場の提供による，相互活性化はとても良い。

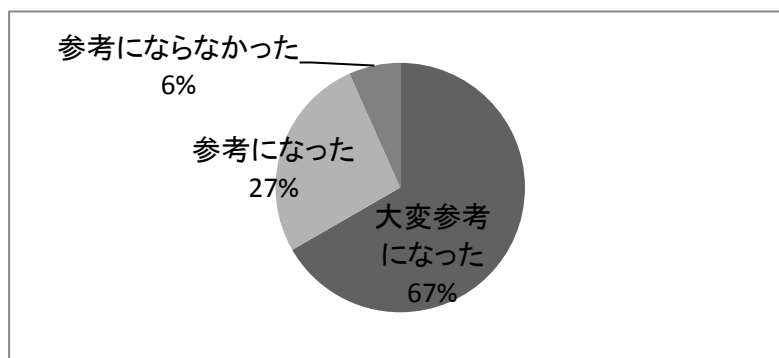
会場B 学校・家庭・地域の連携②

学校と地域が一体となった魅力ある学校づくりを目指して

「おくのキャンパス コミュニティ・スクール」の取組

茨城県 牛久市立牛久第二中学校

牛久第二中学校は，全校生徒 92 人の小規模校ですが，奥野地区では学校を中心とした地域づくりを進めており，隣接する保育園，小学校と「おくのキャンパス」として交流活動を行ってきました。また，平成 29 年 3 月，正式に「コミュニティ・スクール」になり，さらに地域との連携を図っています。そこで，本日は，学校と地域が連携・協働して行っている教育活動や地域の活性化を目指す取組をご紹介しますと思います。



- ・コミュニティスクールはやはり「地域」の力が強くないといけないと感じました。
- ・「学校」だと挑戦できることが限られてくることを学びました。
- ・学校運営協議会の構成メンバーや協議の方法がもっと詳しく聞きたかったです。
- ・地域性がありすばらしい取組であるが，子ども達にどのような変化があるのか知りたい。
- ・コミュニティスクール化された学校の取組が素晴らしい。
- ・コミュニティスクールの在り方を具体的に示す，素晴らしい発表だった。
- ・中学校の働きかけから，地域の様子が感じられた。



会場C 地域課題の解決に向けた取組①

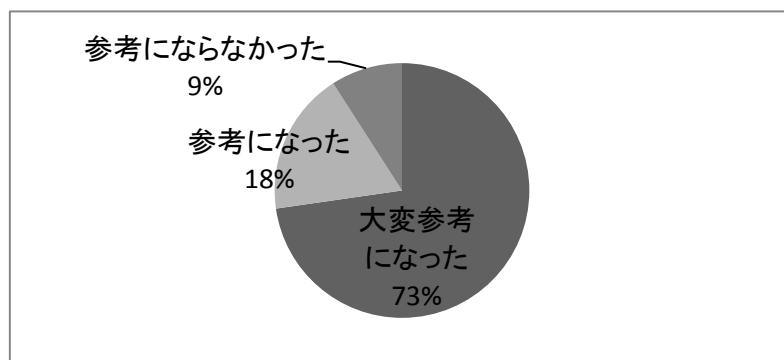
冒険遊び場の運営を通じた地域との関わり ～支える大人も遊んでいる～

神奈川県 ドリームプレイウッズ管理運営委員

○ ドリームプレイウッズ ～遊びの森を創造する～

「子どもは自然の中で、自由に豊かな遊びや体験をすることで、生きることに必要な主体性、自己防衛本能、身体能力、感じる心、道德感、社会性を身に付けていく。子ども自ら遊びの心を育むため、大人は子どもの自由な遊びに対する認識を持ち、大人も子どもと一緒に遊びを体験することで、子どもの遊びの森を創造する」の基本理念のもと、平成 14 年 7 月に開森し、現在に至る。

平成 28 年 12 月、内閣府主催「子供と家族・若者応援団表彰」の子供・若者育成支援部門において、内閣総理大臣表彰を受賞。



- ・かけがえのない経験を活かせる社会になるべきだと感じました。
- ・大変ダイナミックな事例。子どもだましではないのがすばらしい。力づけられました。
- ・とても素敵な取組でした。関わっている人たちが、みんな楽しいのだろうと想像できました。研修会を実施しているところも素晴らしいと思いました。
- ・強烈な個性と信念をもってやっていることがひしひしと伝わってくる。
- ・子どもの体験から得る経験力を改めて知りました。
- ・体験の大切さを実感しました。大人も楽しんで活動できる場、また、戻ってこられる場は必要だと思いました。

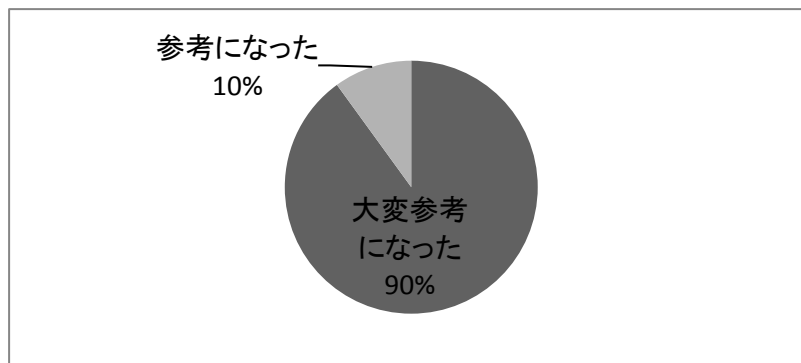


会場D 地域課題の解決に向けた取組②

障害のある方の生涯にわたる学習の充実をめざして ～さわやか青年教室の事例を通して～
千葉県 さわやかちば県民プラザ

さわやか青年教室は、知的障害のある 18 歳以上 50 歳未満の方がよりよい余暇や社会生活を過ごすための方法を学び合う生涯学習の場として、平成 14 年に開始しました。

本事例では、活動プログラム（レクリエーション・料理教室・高校生との交流会・ハイキング等、年間 7 日）の特徴や工夫点、講師（特別支援学校教員等）や学生ボランティア等、外部との連携における工夫点、事業の成果と課題を中心に発表します。



- ・文科省からの委託での実践とのこと。幼児期の36の動きは大変参考になった。
- ・昨年度まで在職していた施設の発表を聞け、大変満足であった。
- ・工夫されたプログラムだと感じた。
- ・シンプルだが実際に事業化する機会がないので、事業化へのコツを広めて欲しい。
- ・支援学校卒業後に青年教室があることは、本人も家族も安心できると思いました。
- ・障がいのある方の生涯学習の機会均等は、今私のテーマなので参考にします。
- ・障害者の生涯学習の視点がすばらしかったです。



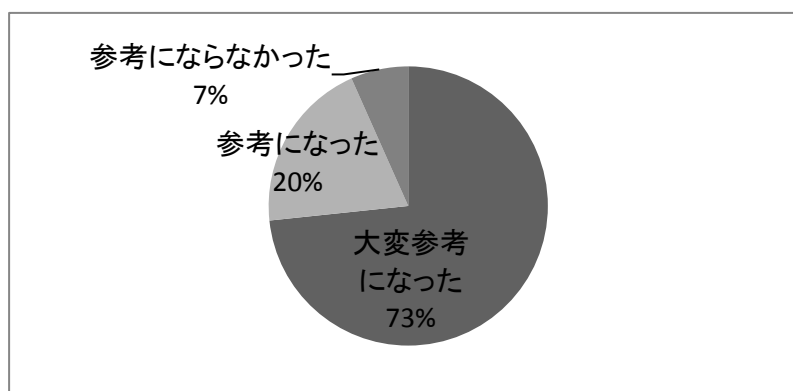
会場E 青少年教育

幼稚園・保育園との連携による運動能力や体力の基礎を養う体験と場の提供について
～教育事業「ばんだいこどもの森キッズランド」の実践を通して～

福島県 国立磐梯青少年交流の家

この事業は、施設内にある「ばんだいこどもの森」を活用し、幼児期に必要な運動能力や体力の基礎を、36の基本的な動きを取り入れた遊びを通じて、養うことをねらいとしています。

親子のふれあいを大切にしながら、幼児期の遊びを中心とした事業について発表します。



- ・子どもから保護者までの企画で多くの人に興味をもってもらえそうだった。
- ・幼児教育事業を考えたことがなかったので参考になった。
- ・就学前教育で体験活動ができてよい環境だと思いました。
- ・ていねいな説明で、事業活動が良く分かった。豊かな自然の中で、素晴らしい体験活動があり良かった。
- ・体験・遊びナビゲーターの内容は就学前にとっても効果的で、体育的に見るとすべての子どもに必要と感じました。
- ・幼児期をターゲットにした事業はとても良い。役割をしっかりとった考え方も良い。



④ 16:45～17:30

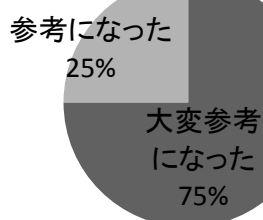
会場A 学校・家庭・地域の連携①

コミュニティ・スクールでふるさと栗橋とともにある学校をめざして
～子どもたちが育ち 保護者や地域の方々が輝きひとがつながるために～

埼玉県 久喜市立栗橋南小学校

久喜市では、今年度より 34 校のすべての小中学校がコミュニティ・スクールとなった。コミュニティ・スクールとなるまでの過程を紹介します。

また、今年度の取り組み ①さまざまな学習支援 ②みなみんフォーラム ③放課後子ども教室などを紹介します。学校を核とした地域のつながりをめざしての成果と課題、これからの方向性を発表します。



- ・久喜市のトップダウンのもと、元気のある学校の取り組みが素晴らしい。
- ・コミュニティスクールの大切さはよく分かったが、その反面、大変さもたくさんあると思いました。
- ・コミュニティスクール発足の苦労や工夫がよくわかりました。参考になりました。
- ・先生方が熱意をもって取り組んでいることが分かった。
- ・コーディネーターの一極集中ではないのがよかった。



会場B 学校・家庭・地域の連携②

地域から学校を核とした、新たな人・街・学びへの取組

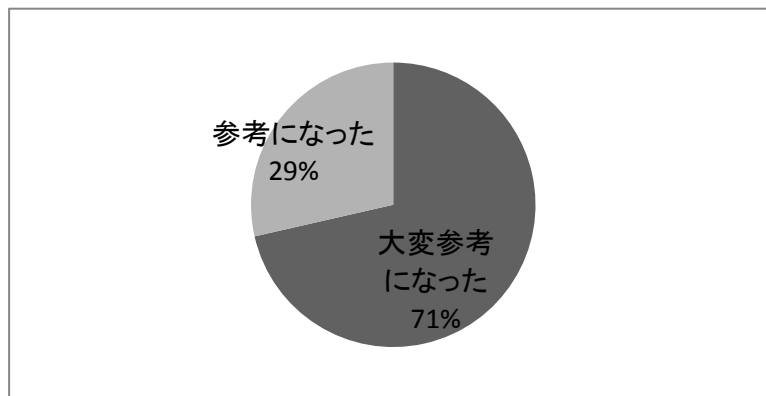
～挑戦する学校は、元気な街を作る源（みなもと）～

千葉県 みらいスマイルコミュニティーズみどりが丘小学校区

駅前のボランティア清掃から始まったこの取り組みは、継続したことで、街の社会的な活動の一端を担うようになり、街の安全安心活動となった（ちばコラボ大賞）。

3.11によって、学校が避難所となったことから、子供・街の防災教育として総務省消防庁「防災まちづくり大賞」を受賞しました。

今年度から「みらいスマイルコミュニティーズ」として、地域の発展・教育を目指して人材発掘・育てることを目的とした「みどりサミット」（タウンミーティング）を開催し、みらいに向けた活動を進めています。



- ・地域の方がコミュニティスクールの推進をしているところに驚きがありました。地域の方が学校にどんどん入ってこられていることでつながっているのは、素晴らしい取組だと思いました。
- ・地域の方がリーダーとなって、学校をサポートしている体制は本当に参考になりました。
- ・地域を盛り上げていくきっかけは「誰にでもつくることができる」と知りました。
- ・地元住民の方の発想で企画・運営をされていて、すごいと思いました。
- ・防災の重要性について改めて感じました。
- ・鈴木さんの意欲がとてもよく伝わってきました。



会場C 地域課題の解決に向けた取組①

知的障害者の生涯学習と生きる力について

～千代田区日曜青年教室&自主サークル「ヘルマンハーブちよだ」の活動から～

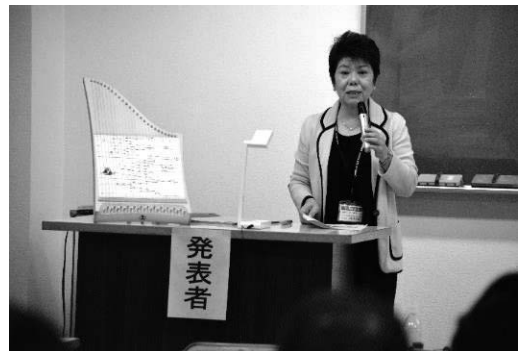
東京都 千代田区地域振興部生涯学習・スポーツ課

千代田区日曜青年教室は、知的障害者の余暇の充実を図る目的から、通年事業として開設し、来年度には40周年を迎える。知的に障害がある彼らが心豊かに生きるための居場所づくりは、社会教育行政の責務のひとつである。彼らの生活の中で仕事、家庭以外の居場所は健常者のそれよりいかに大切なことであるかは、21年間担当してきた者の実感である。

7年前、五線譜が読めなくてもメロディーを奏でられるヘルマンハーブとの出会いはサークル結成となり、以後の彼らの成長は目を見張るばかりだった。現在では、支援を受ける側から支援をする側となりボランティア活動を行っている。

大変参考
になった
100%

- ・「支援されてばかりが支援する例」という言葉が大変印象的でした。
- ・工藤さんの姿勢に、頭の下がる想いでした。まさに社会教育ですね。ありがとうございました。
- ・ハーブの活動に感動しました。
- ・ただただ勉強になりました。
- ・コミュニケーションツールとしての音楽、ヘルマンハーブという視点が大変参考となった。
- ・ヘルマンハーブを初めて知りました。
- ・東京都はすごい。さすが、人口が多いとニーズ実現力も違うと思いました。
- ・ヘルマンハーブの存在を初めて知った。その活動に感動した。
- ・青年教室、ヘルマンハーブ、大変参考になりました。見学に行きたいです。



会場D 地域課題の解決に向けた取組②

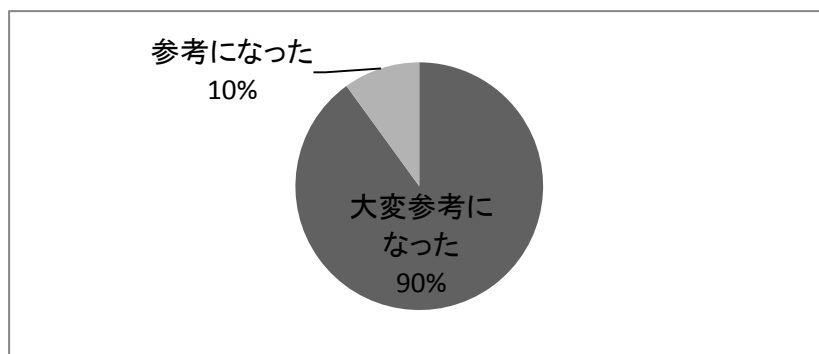
農を通じた自立型人間の育て方 ～福島県農業短期大学校～

福島県 福島県農業総合センター農業短期大学校

農業大学校は、実践的な農業の技術力と経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成する機関として、全国42道府県に設置されています。

当校で開催する行事の中で、地域の方々が待ち望んでいるものに、学生が栽培した農産物を販売する直売実習があります。

本発表では、農業を通して地域と学生が互いにウィン・ウィンの関係にある事例を紹介します。



- ・とても分かりやすかったです。
- ・農業短期大学校を見学に行きたいと思いました。
- ・農業を一つのツールとしているところが素晴らしい。
- ・農業短期大学校の実態が良く分かった。
- ・地域との連携の実践事例や展望があると、さらに良かったと思います。



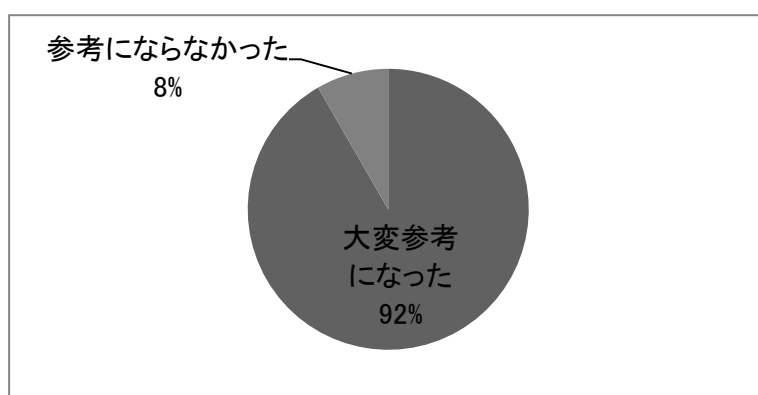
会場E 青少年教育

地域力を生かした青少年教育への取組

～地域力向上事業「まるごとふくしま冒険キャンプ」を事例として～

福島県 国立那須甲子青少年自然の家

22名の小学生がボランティアの若者と9日間にわたって福島県の自然や文化、施設や人材等の特色を生かした様々な活動に集団で挑戦する過程で、自分で考えて行動する力、仲間に対する思いやりや助け合う心、身近な方々や社会に対する感謝の気持ち、忍耐力等を育ていくこと、また、福島県の地域教育力を最大限に生かし、郷土に目を向けられる心情を育てることを目的とした。この目的を達成するために8泊9日のキャンプ中に取り組んだ活動と、その過程で成長した子ども達の姿について紹介をする。



- ・ねらいや実施方法がわかりやすかった。
- ・キャンプ活動を行う中で、地域の話などを聞いて学びの機会を得られることが良いと思いました。

- ・施設周辺だけでなく，海のプログラムを入れるなど，体験をふんだんに取り入れた事業でおもしろいと思った。
- ・地域の人々や他の施設との連携を勉強した。宿泊を通じて，子どもが総合的に成長する姿がイメージできた。
- ・だれが「幸せ」の対象かわからない。
- ・スケールの大きいプログラムで具体的でわかりやすい内容だった。

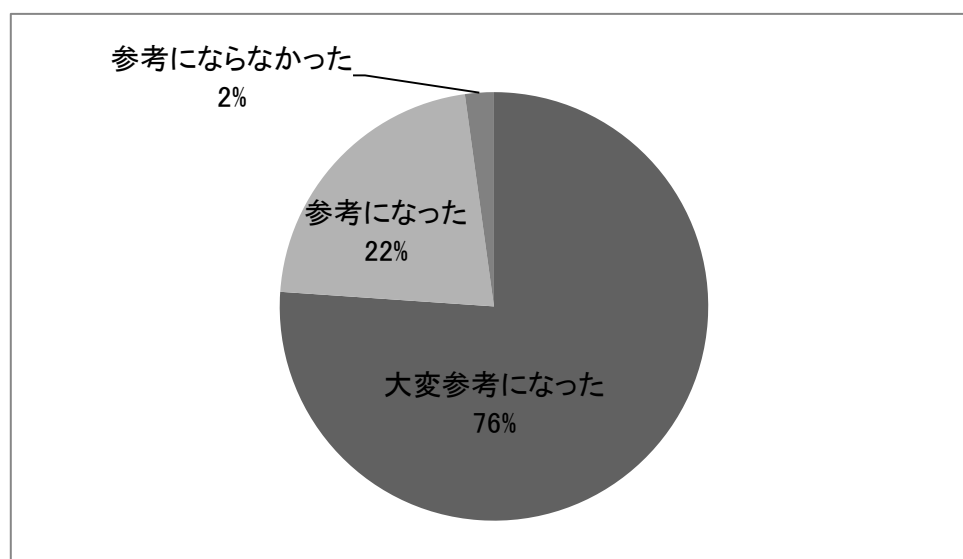


（４） 特別講演

『 国連持続可能な開発目標（SDGs）がめざすもの』

～世界と地域はどうつながっているのか～

国立大学法人茨城大学 学長 三村 信男 先生



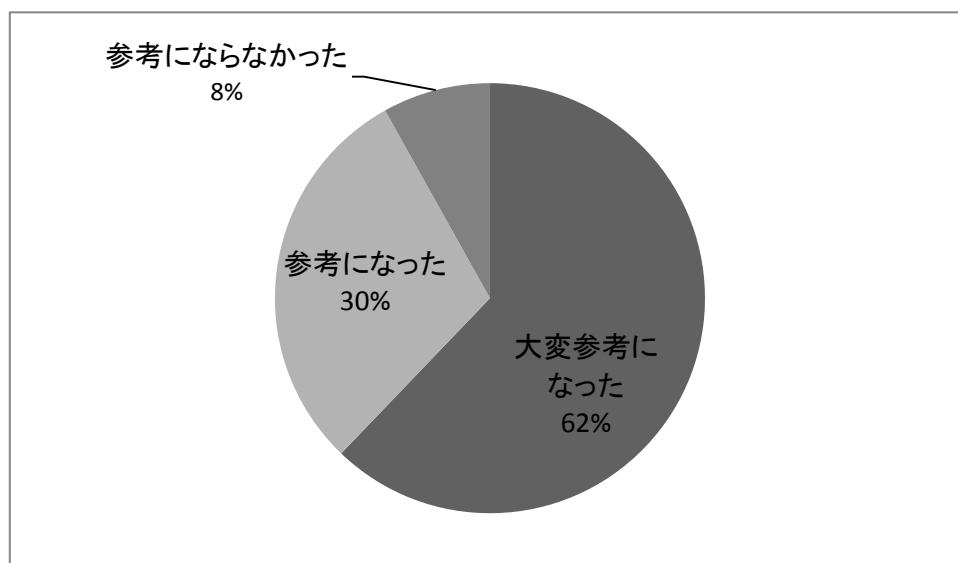
- ・普段うかがえないようなお話をうかがうことができよかった。大学の発信の仕方などもとても興味深く聞けた。
- ・SDGs についての理解が深まった。
- ・三村学長のすばらしい講演を拝聴させていただきました。地球温暖化の影響からその対策，大学運営，そして生涯学習まで含めたすばらしい講演でした。有難うございました。
- ・持続可能な社会の形成という意味がよく分かった。
- ・自分には身近に感じない北極等の問題も，自分のできるところから様々な活動ができると教えていただきました。



- ・SDGs というグローバルな話が、生涯学習とどうつながるかと思っていたが、結構つながりがあることがわかった。
- ・持続可能な社会をグローバルに考えることができました。
- ・環境問題について理解を深めることができたが、さらに社会教育との関連性について学びたかった。
- ・連携、パートナーシップ、良い勉強になりました。
- ・SDGs について知ることができた。世界と日本のこれからの課題について、わかりやすく理解することができた。
- ・グローバルな話から身近な話につながり、豊富な知識を知り得ることができた。
- ・温暖化，SDGs，地域創生のつながりがよくわかりました。コミュニティの存続と温暖化のつながりは、腑に落ちました。
- ・人々が直面している問題から、生涯学習に取り組んでいくことは大事だと分かった。
- ・私は女性・若者チャレンジ支援事業のサポーターをしているが、三村先生の話に参加団体の人に聞かせたいと思う。地域や世界を考えるいい話だった。
- ・これからめざすものに関して理解するとともに危機感を意識しないといけないと思った。
- ・難しいテーマかと思いましたが、大変わかりやすく今後につながる内容でした。
- ・多様なジャンルの方にもたくさん聞いていただきましたかったと思います。
- ・温暖化の問題が具体的だった。
- ・SDGs への理解がより深まった。課題解決には包括的な視点が必要との思いを強く持った。
- ・持続可能性ということばから、少しずつ自分に近くなりました。自分の問題は自分で解決していく、でも周りとの協力していくことが大切ということばは、社会教育につながっていると思いました。
- ・持続可能な開発には、コミュニティの再生が必要ということが分かった。今後の活動に活かしていきたい。
- ・地球温暖化とその及ぼす影響について、データをもとに分かりやすく話していただいた。よく理解できた。
- ・いい講義だったが、社会教育と少しはなれていたのが残念。
- ・広い視野からのお話をうかがうことができて、大変勉強になりました。持続可能な開発目標について理解がありました。
- ・グローバルなお話が聞けて良かったです。
- ・「地球の持続性と地域の持続性はつながっている」というコメントが印象に残りました。
- ・ヨーロッパや中国の流れがEVへと向かう中で、資源の少ない日本では原子力発電の重要性はどのようになっていくのでしょうか？政治家はやめようという方も多いのですが…。
- ・興味深い内容だった。
- ・とてもためになりました。
- ・パワーポイントをプリントして配付してほしかった。画面が切りかわるのでメモできない。
- ・今までは不可能だったことを可能にする力がある。一人一人の行動が世界を変えていくことにつながるということを学ぶことができた。



(5) 全体会



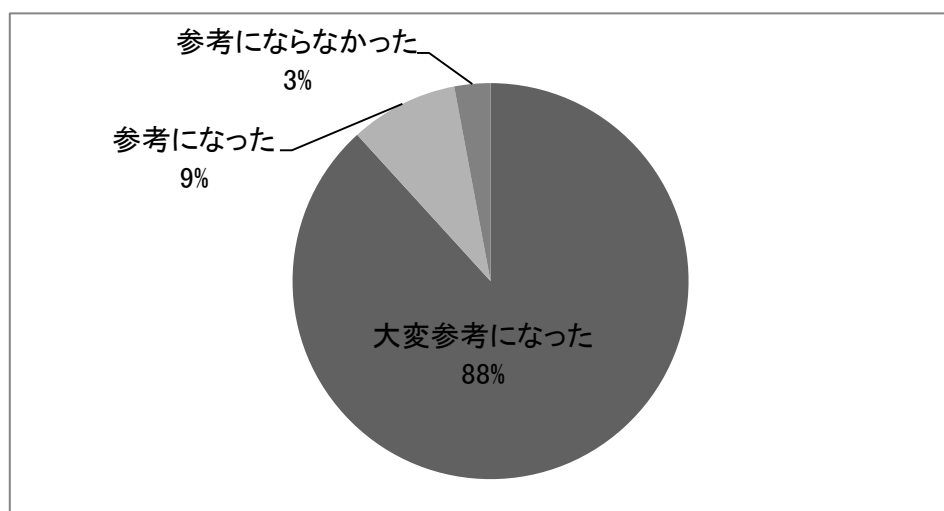
- ・ネットワークを広げさせていただきました。
- ・それぞれの取組や思いなどを共有することができた。短い時間だったが、2日間の思いを伝え合えてよかった。
- ・他の方々と交流をすることができ、新しい出会いがあり、とても良い時間でした。
- ・自分ではでてこない意見を聞き、参考にさせていただきました。
- ・他の職業の方とたくさん会話ができました。
- ・他県の取組について、くわしくお話を聞くことができた。
- ・一方的に話をされている方もいて、なかなか思うように交流ができず残念でした。
- ・他県の状況について、情報交換ができて参考になった。
- ・新しい情報を交換することができました。
- ・実は人見知り（がち）なので、たくさんの人と話せて嬉しかったです。
- ・女性プラザ、就学前教育・家庭教育推進室の職員と会って話ができてよかった。国立中央青少年交流の家所長さんとも一緒だった。



- ・コミュニケーションを深めることができた。
- ・他県の方の状況等伺いすることができ、参考になりました。
- ・交流を深め活性化することは重要だと思いました。
- ・できれば、この場を1日目にもってきた方がよいのではないか。
- ・社会教育主事の先生方から、様々なお話が聞けて貴重な時間となりました。
- ・話の共有を、もう少し深めたかった。
- ・初めて会う方とお話しすることができてよかったです。より学びが深まりました。

(6) クロージングトークセッション

<コーディネーター> 国立大学法人茨城大学全学教育機構長・副学長 木村 競 氏
 <登壇者> 茨城県高萩市教育委員会教育長 小沼 公道 氏
 栃木県教育委員会事務局生涯学習課長補佐 井上 昌幸 氏



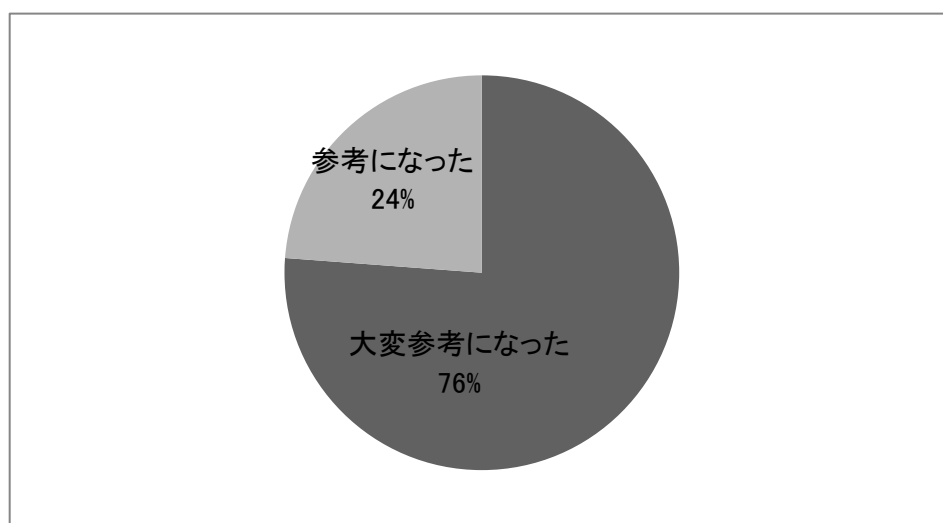
- ・つながり・連携によって、見えない課題に気づいたり、課題への新しいアプローチ方法を学べたりすることができました。
- ・井上氏、小沼氏の話はすばらしい。
- ・小沼氏の「子どもの心をモザイクに」というお話はイメージがふくらみました。
- ・社会教育と学校教育の統合が大事だと分かったので、多くの県でやってほしいと思った。
- ・生の声がたくさん聞けてよかった。
- ・学校、家庭、地域の連携の大事さ、挑戦、熱意が感じられた。また、見直しを図り今後もチャレンジしていきたいと考えました。
- ・学校、地域、家庭が連携を図ることが大切である。その中で、茨城、栃木両県の学社連携の取組について知ることができてよかった。
- ・学社連携が中心であったが、クロージングトークの目的は何であるのかを理解していなかったもので、良いかどうかわからない。



- ・登壇者の意気込みに触れ、刺激された。
- ・連携，つながり，生涯学習の在り方について，また新鮮なことを学ぶことができました。
- ・課題が分かってよかった。
- ・地域の実態と合わせた内容でとても参考になった。
- ・子どもは学校だけでは育たない。先生もうまくできないことを素直に受け入れ，地域ボランティアをどんどん生かすことが児童のためだと分かりました。また，人にふれ，その人の気持ちや生き方にふれることが大切なのだと思います。
- ・大変参考になりました。
- ・「子どもは学校だけでは育たない」。子どもが成長できる場は色々なところがあるので，生徒の可能性を広げていきたい。
- ・地域との連携について，学校教育現場での経験をもとにした発言で説得力があった。
- ・登壇者のお二人の取組実践が聞けて参考になった。もっと深く聞ければよかった。
- ・登壇者お二人のお話がともに魅力的で大変参考になりました。学校・家庭・地域の連携をより進めていきたいです。



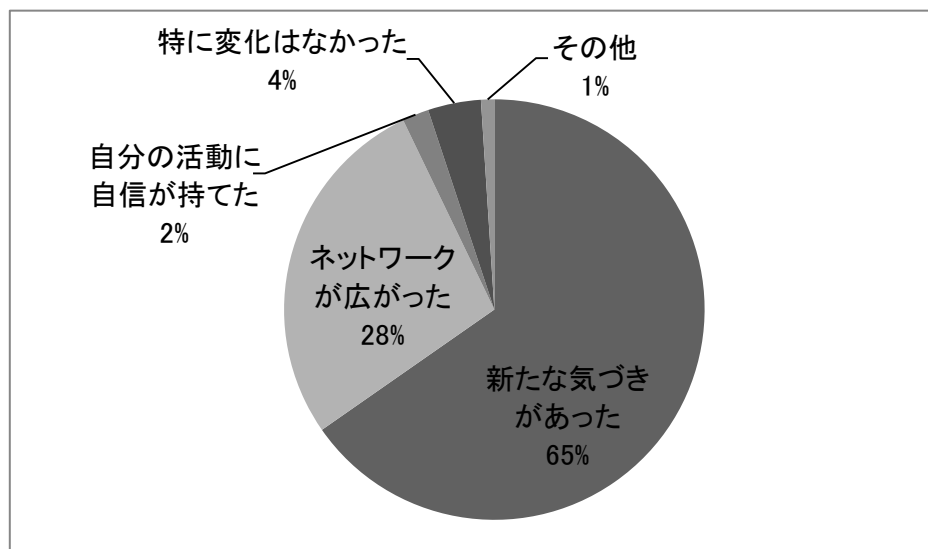
(7) 大会全般



- ・2日間を通して，生涯学習・社会教育について深く学ぶことができた。様々な取組や思い，情熱を感じることができた学び多き2日間であった。

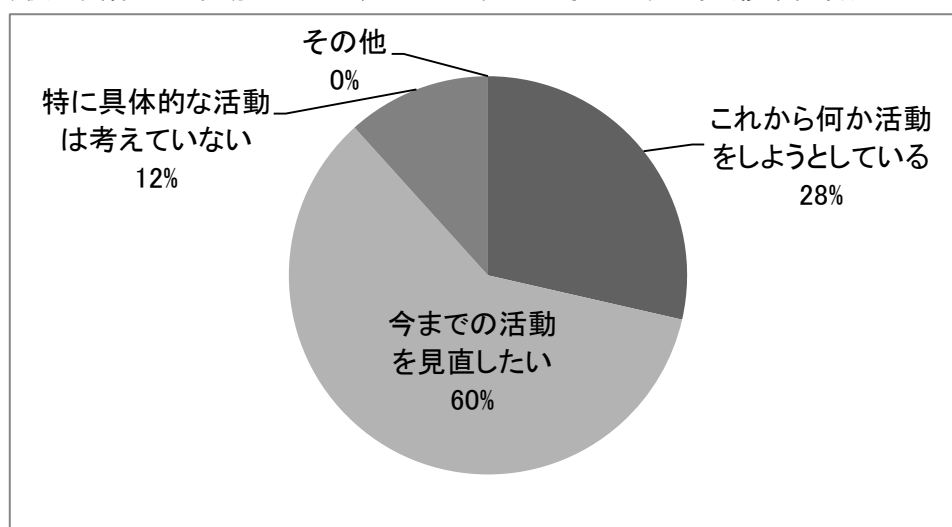
- ・ 熱い2日間で、とても勉強になった。
- ・ 生涯学習の多様な領域において発表があり、幅広く研修できた。
- ・ 事例発表で色々な発見があった。
- ・ 地域連携の活動などは、興味がある人しか集まらないと思っていましたが、学校などが関わることで興味のない人も巻き込むことが可能だと感じました。そうして、巻き込まれた人も意識が変化すると思いました。
- ・ 関係者の皆様、お疲れ様でした。
- ・ 2日目からの参加になったが、とても勉強になった。ありがとうございました。
- ・ みなさんの底力を感じました。ご苦労様でした。
- ・ 運営スタッフの皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。
- ・ これだけの大会（交流会）を企画、実施していただき感謝です。学び、気づきの多い時間となっています。
- ・ 初日のみ参加させていただきましたが、4つの事例発表はすごく勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 必ず協議してリフレクションできたのがとても良かったです。ことばにすること、表明することによって認められたことは自信になりました。
- ・ 参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・ 研究会のトップが変わったが、運営スタッフの方は過去2回同様良い雰囲気でも盛り上がり、ようございました。
- ・ とても内容の濃い、充実した大会でした。ありがとうございました。
- ・ 2日間参加させていただきました。とてもよい学びになりました。ありがとうございました。
- ・ 生涯学習・社会教育の奥の深さが少し理解できた。
- ・ 大変刺激を受けました。

（８） この大会参加をきっかけに、あなた自身にどんな変化がありましたか。（複数回答）



- ・ネットワークが広がり「人と人とのつながり」を実感しました。また、現在私が行っている地域活動にも還元できる新たな気づきもありました。
- ・様々な地域での取組が紹介され触発された。
- ・普段自分が目につかないことが取り上げられていたので学びが深まった。
- ・県立高校と連携して、色々な活動ができることが分かりました。
- ・全国の様々な地域で、社会教育・生涯学習の分野で活躍している人がいることがわかり、大変刺激になった。
- ・とにかく行動にうつしてみることが大切だと感じた。
- ・この大会への参加も今年で3回目となりました。とても有意義な講演を拝聴できました。有難うございました。
- ・障がいのある方の生涯学習をどう進めるかが課題だったので、参考になりました。
- ・学校でも生涯学習を統合して考えることで、より良い教育が行えるだろう。
- ・今後の活動をするにあたり、目標を掲げてブレないようにしていきたい。
- ・多くの方と話すことができました。社会教育について熱い人たちにお会いすることで視野が広がりました。
- ・世代の違う人たちとのコミュニケーションができて、考え方やものの見方についてとらえ方が変わった。
- ・なかなか考えることのできないような取組を細かく知ることができ、考えが広がった。
- ・他県の職員と名刺交換をし、ネットワークが広がった。
- ・一人親対策、就学前の体験活動の事例が参考になった。事業の一部として参考にしたい。広い視野をもつことが大事だと思った。

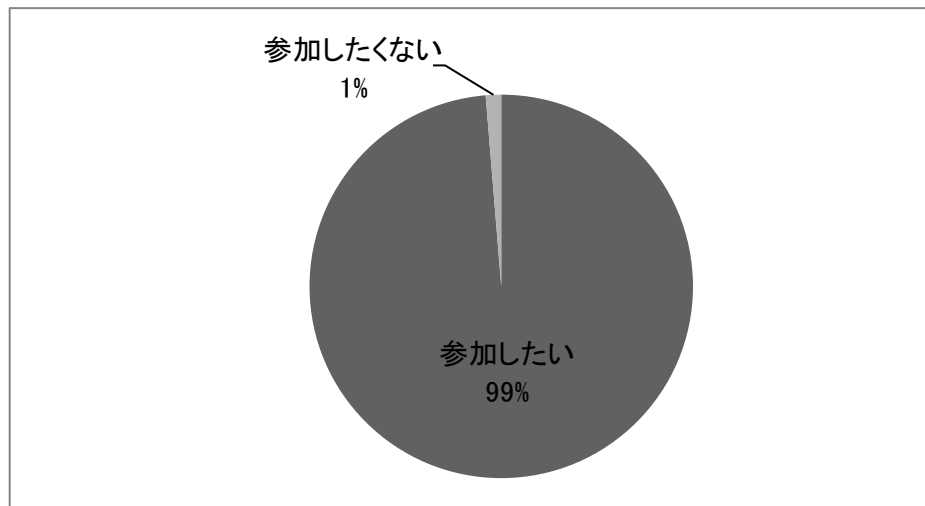
(9) 今後の具体的な活動について、どのようにお考えですか。(複数回答)



- ・市立図書館と県立高校の連携…図書館をこれから多く利用していきたいと思った。
- ・学校・家庭・地域の連携をすすめたい。

- ・活動そのものには変化はないが、関わる人々、運営する側の見直しが必要だと感じた。
- ・施設間の共催事業の手法。
- ・地域活動や生涯学習センター事業の中で、大学（学生）との連携を企画していきたいと考えている。
- ・家庭教育相談員の仕事をしっかりやりたい。
- ・コロッケで街おこし…コロッケに関すること（じゃがいもが特産品だとか、コロッケの伝統があるとか）が特にあるわけでもないのに、ここまで大きくまちおこしとして成功していることに感銘を受けました。何気ないきっかけがまちおこしにつながることを学ばせていただきました。私たち大学生にもきっと何かできることはあると思うので、ぜひ参考にさせていただきます。
- ・コミュニティスクールの今後の在り方が参考になっている。
- ・自然を生かしたプログラムを企画し、人々が力いっぱい活動し人間らしさを体得できるようにしたい。
- ・農を通じた自立型人間の育て方…発表された齋藤先生と連絡をとって、何か一緒にやりたいと思った。
- ・コミュニティスクール。
- ・自分で担当している講座、催し物等を見直したり、新しい企画に活かしていったりしたい。
- ・「チャレンジ手帳ちよだっ子」の実践…社会教育委員の会議担当なので、参考になりました。
- ・教員の自然体験活動の充実（初任研や自主研修へ）。
- ・「さわやか青年教室」と「日曜青年教室&自主サークルヘルマンハーブちよだ」の活動…生涯学習の機会均等の取組をしたいと思っていたので、参考になりました。ありがとうございました。
- ・千代田青年教室とヘルマンハーブ。
- ・地域婦人団体連合会の担い手育成も課題なのですが、他のことと一緒に課題を解決しようとしている三村先生の考えをうかがい、自分の考えに自信がもてました。
- ・特別講演の中にSDGsと地域との関連性の話があり勇気づけられた。
- ・学校から地域へと積極的に発信していきたい。
- ・「だれが幸せになるのか？」個人の幸せが一番という実践がなく、考え方が悪いのか、考えさせられる。ボランティアひとつ考えても「ほどこす」という考えなのかもしれないが、そうではないと思う。自分の幸せを活動の中に見出し、家族の幸せ、そして周囲、そして地域という発表がききたかった。
- ・幼児期の子どもの育成に関わりたい。
- ・小学生が中学生になってスタッフとして活動している例があった。小、中、高とそれぞれで、地域の連携、関わり方が成長段階に合わせて変わってくる。高校生は、地域づくりに主体的に参画できるのではないかと思う。
- ・一人親、就学前の体験活動の提供。
- ・市立図書館と県立高校の連携…今までの活動・思考は「図書館＝勉強」というイメージが強くあまり本を身近に感じる事がなかったので、率先して図書館で本を手にとっていきたいです。

(10) 次年度の交流会に参加したいと思いますか。



- ・聞きたい事例発表が同じ時間にかぶってしまったので、どちらを聞こうか少々悩みました。
- ・講演については、もう少し社会教育・生涯学習に特化したほうが良い。
- ・やはり、様々な方々と触れ合い意見を交換する中で、情報、考え方、実践を見直したり、創り上げていけたりすると思うので…。
- ・情報交換会の直前に仕事の電話が入り、そのまま失礼してしまいました。伺ったところによると各地紹介があったそうで、申し訳ありませんでした。
- ・各地の生涯学習についてもっと知りたい。
- ・勉強にはなるので。
- ・スーツのおじさんばかりで堅苦しかった。難しく理解できないことが多い。
- ・学べる事がたくさんあり、自分の行動を見直していけると考えるため。
- ・各分野でもう少し時間のある発表であれば、積極的に参加したい。

(11) その他お気づきの点がございましたら、ご意見ご感想等ご記入ください。

- ・たくさん学ぶことのできた2日間でした。学んだことを、つながりを通して地域にいかしていければと思います。ありがとうございました。
- ・ある程度年齢を重ねてしまうと、ボランティアや地域活動に対して「めんどくさい」や「やらなきゃならない」という「マイナスイメージ、強制感」が付きやすいと私は考えています。しかし、今回の事例発表の中には、小学校や中学校などが地域などで活躍しているものもありました。小さい頃からボランティアや地域活動をすることで「マイナスイメージ、強制感」が「楽しみ、あたりまえ」に変化させることができるのだと感じました。こうした取組が今後もっと増えると良いなと思いました。そのためにも、今回のような大会の場はぜひまた開催してほしいと感じ、私も参加して、たくさんのことを学ばせていただきたいと思います。
- ・2日間に渡った実践事例があると目的意識がでてくると思う。事例が命かと思う。
- ・茨城が中心に実践し、他県へのアピールをもっともっていきましょう。

- ・協議の仕方がよくわからなかった。
- ・学生がもっと気軽に足を運べる企画だと、意見交換や内容への興味も高まると感じた。
- ・3回目の開催ありがとうございます。他県も後援から共催化へ動いてくれることを期待しています。
- ・会場ごとに聴講の人数にばらつきがあり、少し残念だった。
- ・各県、各分野、さまざまな取組を聞くことができて大変勉強になりました。
- ・他県からの参加率を増やす手立てが必要では。
- ・2日間参加したかったのですが、仕事の都合で2日目だけの参加となってしまいました。
- ・準備、おもてなし、運営、ありがとうございました。心地よく参加できました。大分県でも広げて来年もだれか連れて参加したいと思います。お世話になりました。
- ・移動、休憩の時間が長すぎることがある。
- ・県外の方及び大学生、更には地域で活動をされているNPO等団体の方の参加も期待したい。
- ・1日目の事例発表に、もっと民間団体の事例があればよいと思った。
- ・時間に限りがあると思いますが、聞きたい事例発表がたくさんありました。時間の工夫があればいいかなと思います。準備等ありがとうございました。
- ・生涯学習・社会教育の考え方が少し違うと考えています。すばらしい発表なのかもしれないが、それが広がらないのは原因があり、幸せ、幸福感をだれもが共有できる街をつくるのが行政である。お金をつかうことが行政ではない。「良い街には良いクラブ」、「良いクラブには良い街が」というドイツのことを少し考えました。「良い街には良い学校があり、良い学校は良い街にある」と置き換えられることを祈る。
- ・今回は貴重な学びを事例発表や意見交換、情報交換会等を通して得ることができましたことに心から感謝いたします。また、毎回のことですが、事務局の皆様や実行委員の皆様をはじめ、今回の研究交流会の運営のために温かい御心配りをいただきましたことに重ねて感謝申し上げます。2日間本当にお世話になりました。ありがとうございました。
- ・この交流会に対する関東各県の対応に温度差があるように思う（出席者数の減）。本県が3回連続で開催しているが、各県のいずれかが受けてくれるような話し合いをすべきではないか。また、その努力をすべきだと思う。
- ・司会の横濱さんの話し方が大変素敵でした。色々とお世話になりました。
- ・事務局のみなさまには、大変お世話になりました。学び多き2日間でした。
- ・実行委員、事務局の対応がきめ細やかで、不安なく参加することができました。
- ・全体会について、2日目のみ参加した方もいるので、案として、分科会の担当者からそれぞれの内容を簡潔に報告するような形もあるのでは？あるいは、クロージングトークセッションでゲストの発表時間を十分（2人合わせて30分程度）にとってから、トークセッションに入るようにして1時間使って良いのでは？
- ・事例発表の時間が短く、内容をもりこみすぎているので、余裕をもったプログラムにすると良いと思う。
- ・様々な取組や考えを聞くことができ、自分の考え方やこれまでの取組について考える機会となりました。ありがとうございました。

6 事例発表協議メモ・メッセージボード集約結果

<会場A 学校・家庭・地域の連携①>

① 子どもたちの笑顔と輝きを求めて ～ぬかだサタデースクールの実践から～

- ・地元の大切さを再認識した。自分の学校にも取り入れたい。
- ・三者の連携が重要。言葉だけでない所がすごい。
- ・地域でやろうとする力、しかけがある。
 - 高齢者と子どものふれあいは、子どもの心が大人の心も育てている。
 - 人と人がつながる地域へとなくなっていく。
- ・学校の協力体制も素晴らしい。他にも見習って欲しい。
- ・子供会が消滅している中、貴重な取組である。
- ・「子どもの力」を地域で育てている。素晴らしい。
 - 大人の苦労を見て、子ども達から自主的に「手伝います」のことばが出てくる。
 - それを学校に報告し、校長先生が全校に善行を放送する。
- ・児童数42名の超小規模校で、学校閉校後も地域を残していきたいと考えている。サポーターが増えている。また、一期生が残って参加している。次世代までのつながり、育成がキーポイント。参考になった。

② 栃木市型教育システム「とちぎ未来アシストネット」

～ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり～

- ・学校に地域連携教員と学校コーディネーターがいる。
- ・「学校支援地域本部＝公民館」で地域コーディネーターがいる。
- ・教育委員会の中に「公民館課」がある。
- ・システムがきちんとしていて、学校にも負担感がない良い取組。
- ・地域連携教員と学校コーディネーターはどんな人なのか。
 - 地域連携教員は担任をしている社会教育主事有資格者が、学校コーディネーターは教頭、教務が、それぞれ多い。
- ・地域コーディネーターの地域住民へのアプローチの仕方
 - あえて人材バンクはつくらない。知り合いを通じたり、公民館を頼ったりしている。
 - できない時には、学校に対して「できない」と言う。
- ・地域連携教員がただの窓口になっている。
- ・学校の負担感を感じさせず地域を巻き込んでいるのがすごい。
- ・子ども学芸員とは。
 - 子どもが地域について学んだ後の発表の場。地域の人に対して、自分が学んだことを直接発表する。
- ・地域コーディネーターの選び方は。
 - 学校から推薦してもらっている。教育委員会が研修をして任命している。「地域コーディネーター必携」を作成している。後継者を自分で連れてきて一緒に活動している人もいる。

③ 公民館・コミュニティ施設を利用した「学びでつながる寺子屋事業」

- ・教員志望者にとって有益である。
- ・「できること」から企画していてスキルアップを図れる。参考にしたい。
- ・学習と体験活動の割合は。
→ 半々くらい。
- ・保護者のニーズは。
→ 小規模校はずっと同じメンバーで交流がない。寺子屋には他校の児童・生徒との交流があり、わくわくして帰る。そこを期待している。
- ・学生が試行錯誤しながら教え方を考えることで成長していく。
→ 学生は流動的で、登録していても参加できないなど人材が安定しないことが課題である。
また、常設の寺子屋（月2回）では、マンネリ化しないようにメニュー（学習＋体験）を開拓していかなければならない。

④ コミュニティ・スクールでふるさと栗橋とともにある学校をめざして

～子どもたちが育ち 保護者や地域の方々が輝き ひとがつながるために～

- ・やりながら修正した点はあるのか。裏話を…。
→ 当初多くの疑問が上がったが、単なる手伝いではなくパートナーであると説明した。
学校運営協議会の中には、まだ一緒にやろうという気持ちがない人がある。
単なる学校支援がコミュニティ・スクールだと思っている人が多い。
- ・すでに学校支援がうまくいっている学校の校長が声をかけると、地域の人がすぐ集まってくれるので、コミュニティ・スクールに必要なのではないのではと思っている。
- ・地域コーディネーターは他に仕事をしているのか。また、実際にどのくらいの仕事量をしているのか。
→ リタイアされたシニア世代がメインのコーディネーター。
放課後子ども教室は別のコーディネーターというように分担している。
コミュニティ・ルームをつくり、PTAからお金を出してもらって、お茶を飲めるようにしている。
- ・先生方の抵抗感はどのくらいか。
→ 職員は「コミュニティ・スクールになったのかなあ」というくらい。
逆に、まだあまり理解がなく、そのかわり管理職以外は負担感がないという状態。



<会場B 学校・家庭・地域の連携②>

① 北茨城市立図書館との連携による学び ～高校生の実践より～

- ・高校生のときに図書委員だったが、このようなことはしなかった。この活動は地域活性化にもなっている。自分にもそんなチャンスが欲しかった。とても素晴らしい活動でした。
- ・読み聞かせの題材になぜ「はらぺこ青虫」を選んだのか。
→ 昔からある人気のある絵本で、図書館と相談した上で決定した。
- ・中高生から利用者が減っていく。高校と市立図書館の連携はよい活動であり、お互いの連携で相乗効果がある。公共図書館の利用促進にもつながっていく。
- ・資料検索のリファレンス指導は、どんな授業で活用したのか。また、どういうテーマで検索したのか。
→ 国語表現の授業の中で実施した。テーマは自由で、それぞれ異なる。
- ・テーマ研究での図書館利用。図書館職員の紹介などで横のつながりが深まっていく。後輩にもつなげていってほしい。
- ・ここまで仕掛けた先生が素晴らしい。地域とつながって火をつけている。「地域の中の学校」という自覚を、教員の中で1人でも2人でも自覚していってくれば良いと思う。
- ・図書館からはたらきかけはあったのか。
→ 文化芸術等の発表（活動）の1つとして行っている。図書館の想いもふまえて、手探りのままスタートした。
- ・「連携」の中から学んでいく。地域だけでなく、茨城県全体に広めていきたい。

② 今、学校・家庭・地域が子どもたちのためにできること

「チャレンジ手帳 ちよだっ子」の実践から ～2050年の大人づくり～

- ・とてもよい取組で、すぐにでも参考にしたい。「総合的な学習の時間」など、教育課程の参考になった。
- ・コメントに社会教育委員があることが素晴らしい。校長先生にも書いてほしい。
- ・地域とのつながりをきちんと評価でき、子どもでも目で見えてわかるのが素晴らしい。
- ・家庭の記録に差がないが、親とのコミュニケーションツールとしても有効である。
- ・学校での活用は、進路選択にも生かせる。
- ・初参加の時に活気があると、こんなに活気があって嬉しいとなる。
- ・地区の行事が減っている今、共通の取組で、評価が目で見えてわかることがとても良い。
- ・社会教育委員のコメントは、子どものやる気につながる。
- ・地域行事に参加する児童は多いが、調査をすると意識が低い。
- ・自分の活動の積み重ね。評価の視覚化ができる点が良い。
- ・チャレンジ手帳、参考にします。
(発表者)
- ・「2050年の大人づくり」に、今の子どもたちが大人になったとき自分の子どもたちにも伝えてほしいという思いを込めている。

③ 学校と地域が一体となった魅力ある学校づくりを目指して

「おくのキャンパス コミュニティ・スクール」の取組

- ・大変参考になった。コミュニティ・スクールとなって何が違うか。
 - 地域とうまくいっている状況だから、今こそコミュニティ・スクールにして、組織化した。地域の特性から、必然的になった。
- ・「学校運営協議会」のメンバーは。PTA会長や地区長が何役もやっているのか。
 - 協議会委員は17名で、メンバーは小学校と同じ。
別々に選出すると大変になる。
適任者を行政レベルで選ぶのは難しい。何らかの形で協力してくれた方を地域の評議員と相談して、委嘱する。
- ・「おくのキャンパス」の動きが分かった。「学校運営協議会」と各事業のつながりは（例：英語の特化、環境教育）。
 - 英語…2人のALT、中学校の英語教員が、小学校、保育所へサポートに行く。
学校運営協議会で、学校側が提案、承認。
環境教育…地域の発展、貢献のために、9年間のプログラムを精選して教師の負担を減らしている。

④ 地域から学校を核とした、新たな人・街・学びへの取組

～挑戦する学校は、元気な街を作る源（みなもと）～

- ・地域から自発的にスタートした取組であることがすごい。次の世代、次のリーダーはどうなっているのか。
 - 来年度の防災キャンプから、地域の方を講師として実施する。
中学、高校との連携については、学校側が消極的。
色々な人を巻き込んで、分身（次のリーダー）を育てていく。
- ・社会に生きる子どもたちを育てていきたい。
- ・構成メンバーは。
 - 企画・運営は3名で、当日参加してくれる人に協力してもらっている。
- ・経費はどこから。
 - 参加費を徴収している。
「コープみらい」からの助成金。
今後、市から助成してもらえるかもしれない。
- ・小・中・高のつながりは？
 - 中学生は部活があるので、参加が少ない。
強制はしていない。気軽に参加できるのがコンセプト。
特別支援学校や大学とも協力していきたい。
- ・小さなボランティアから、町づくりへと発展していった活動が素晴らしい。
- ・学校だけではなく、地域で子どもを育てるという意識を大切にしたい。

<会場C 地域課題の解決に向けた取組①>

① 褻（ケ）の再生「鯨ヶ丘商店会の活動」 ～県北芸術祭（アート）と商店街の関係～

- ・商店街が変わっていく様子に魅力を感じている。若者からお年寄りまで興味を示している。とても参考になる発表であった。
 - 学生が赤ちゃんを連れて歩くことで、町が活気づいていく。
- ・他からのアイディアを受け入れない町と思っていたが、今後は。
 - 今後、若者や他の地域の人が生きられる街にしていきたいので、積極的に受け入れたい。
- ・高校の同窓会に参加して、商店街が衰退しているのを感じていた。発表を聞いてとても納得でき、勇気がわいてきた。
- ・おどろき、うれしさを感じた。いろいろな組織の融合をどう考えているか。
 - 職業体験には、いい店があれば集まる。
そこに友縁が生まれ、一人の客が5店舗まわれば連携が深まる。これが重要である。
近代化しなかったおかげで、CM、広報でとりあげられた。それが良かった。

(発表者)

- ・何故、中心市街地が衰退したのか。重層社会（地縁、血縁、職縁、友縁）が小さくなるという、目に見えない変化が原因。
- ・「褻（ケ）＝日常」の再生が必要になった。そして「友縁の場づくり」を行った。
新店舗からいろいろな発想を学び、「想業」をキーワードとして想いを仕事にしていっていった。
- ・県北アートと商店街との関係については、アートは社会の幅を広げるとの発想からコラボレートした。

② コミュニティカフェは地域の要 ～おしゃべり + 飲食 = 課題解決の場～

- ・ヘルシーカフェ「のら」のスタッフは募集しているのか。
 - 外に募集をかけると、審査をしなくてはいけないので時間がかかってしまう。「のら」の場合は、お客さんからスタッフという場合が多い。
- ・マンパワーの秘訣は。
 - 率直に話して…言いたいことを言えない仲にならないように。おいしいごはん「まかない時間」。
- ・どうやって生活しているのか。収入は。
 - みんなの努力で黒字。でも、私は時給1000円？（笑）。まかないで食事…「続けてくれればいいか」の精神。

(発表者)

- ・孤独な子育ての間（千葉県在住時）、公民館に支えてもらった。社会教育に感謝。
そこから、コミレス（コミュニティレストラン）の構想が生まれた。
「実践しなくてはダメ！」と背中を押されて、「のら」を始めた。
- ・「のら」は、多方向で対等な関係。毎日が発見の連続。様々な課題はあるが「やりがい」もある（ゼロから作る、御礼を言われる、出会いがある等）。

③ 冒険遊び場の運営を通じた地域との関わり ～支える大人も遊んでいる～

- ・ どの様な方々が働いているのか。また、年代は。
 - 86歳の高齢者（2名）から15歳（2名）の人が来ている。
老人クラブの様である。平均年齢は63歳である。
大人をみていくのが大変であるが、社会とはそういうものである。
「来るもの拒まず、去るもの追わず」の精神である。永久に続くものはない。
- ・ 親はドリームプレイウッズで、一緒に活動できるのか。
 - 誰でも参加できる。大学生も参加している。
- ・ 予算は。
 - 市から30万円の補助金をもらっている。その他13万円の予算。
また、ロータリークラブに入っていてスポンサー収入もある（70～80万円）。
約130万円の予算で活動している。

（発表者）

- ・ ドリームプレイウッズとは、遊びの森を創造することである。
本当の冒険遊び場で、365日休みなしで運営している。
2001年に発足し、現在の年間来森者は、延べ20,000人（1日60人）。
「日の出～」としているが、日の出は自分で考えさせている。
年間を通して多くの行事を実施している（子ども研修会、災害時想定キャンプ、収穫祭等）。
- ・ 子どもは、自然の中で自由に豊かな遊びや体験が重要。しかし今は、道路でキャッチボールもできない時代、山で自由に遊べない時代。
- ・ 活動を通じて、子ども達との関係、近隣地域との関係ができてきた。ちなみに、近所にタケノコを配っている。
- ・ 多少の危険とは？…リスク（危険）とハザード（障害物）の見極めが課題である。どこからが、本当の危険なのか。

④ 知的障害者の生涯学習と生きる力について

～千代田区日曜青年教室 & 自主サークル「ヘルマンハーブちよだ」の活動から～

- ・ ヘルマンハーブは30万円くらいするのではないかな。7個も用意した。どうしたのか。
 - 13万円である。区で購入してもらった。
会員は13名いるが、7割は自分で買っている。
親としては、この楽器への投資は惜しくない。子どもは、家でも演奏したいという思いがある。会員自身が働いたお金で買っている。
- ・ まとめにある「深い意味」とは。
 - 障害者の人間関係がせまくなりがち。それを広げるということは、心豊かになることである。お金だけではできないこと。
- ・ 「社会教育とは？」と問われたときに、一言ではむずかしいが、この事例は説明できる。
- ・ 知的障害者がヘルマンハーブを通して、与えてもらう側から与える側になれる素晴らしい事例である。

- ・日曜青年教室の回数23回について。
→ 生徒が「先生100歳までやってね」と言ってくれた。「ふれあいたい」という思いから、おのずと回数が増えていく。例として、フラダンス4つのチームが一堂に会して楽しむ。
(発表者)
- ・非常勤でありながら30年、生涯学習の変遷を肌で感じてきた。
- ・＜千代田区日曜青年教室＞
単体での運営は無理。
様々な団体やボランティア（ひきこもりだったMさんが今は中心人物）の協力が必要。
できないことよりできることへの励ましを意識する。
福祉ではなく余暇活動ととらえ、教育的配慮の視点を忘れないようにする。
- ・＜ヘルマンハーブちよだ＞
会員13名（自閉症や知的障害）で、自分が音楽が苦手だったので楽譜を読めなくても演奏できるヘルマンハーブは「弾ける感動を味わえる」。
発表会、演奏会へ多数出演した（障害者の団体が出演することが大切）。
仙台にも行ったが、「みんな行ってみる？」と聞くと「行く！」と言った。
団体行動や音の反響が苦手なはずの会員たちが大丈夫になっていく。
つまり、障害者の学習は、生活の質を高めるものである。

＜会場D 地域課題の解決に向けた取組②＞

① コロケで街おこし ～中心市街地活性化策として～

- ・コロケで街おこし、コロケフェスティバル等の効果的なPR方法として何があったのか。
→ 新聞記者と仲良くなること。コロケパーティーを開催し、記者に食べてもらった。
新聞から取材を受けた後、TVの取材を受けるようになった。
- ・街おこしとしてイベントを行うと、その時の集客はできるが単発で終わってしまう傾向があり
「おこし」の目的が達成されない例がある。その中で、高齢者が元気に働き生きがいを見つけられる取組ということもあり、高齢化社会への提案になるのではないかと感じた。
- ・小・中学校、高等学校との連携はどういったものがあるのか。
→ 小・中学校の給食では、年3回コロケを提供している。
また、小学3年生に対して「コロケ名人」として講演を行っている。
高校生には「コロケコンテスト」を実施している。高校生からアイディアを募り、実際にコロケを作っている。また、このイベントはTVで取材を受けた。
流通経済大学では、学食にコロケを提供している。また、運動部へ差し入れもしている。
- ・コロケクラブ加盟店舗数の推移の、H16～H23の減少、H23～H29のV字回復の要因は何か。
→ 減少の原因は、最初の盛り上がりが欠けてきたことや、味そのものの問題があった。
回復の要因は、大型スーパーやパン屋の参画が大きい。YAHOOのB級グルメ特集において1位になったことから、その効果に便乗しようとする店舗も多くなったようだ。

- ・元気をもらいました。コロッケを食べに行きます。
- ・人を呼び込む方法（考え方）がとてもおもしろく参考になりました。
- ・高齢者が元気になるまちづくりが参考になりました。学校との連携も素晴らしいと思います。
ありがとうございました。

② 青少年の多様な体験活動の場の提供

～子どもの体験施設「こども未来創造館」の企画から運営～

- ・施設再建のスタートの段階から、専門家の意見を反映させたのか。
→ 8割は自分で考えた。その上で、専門家に考えてもらった。
コンペを実施し、設計・企画を提案してもらった。
大学の先生、区民が加わり、5年かけて作った。
- ・150万人の入館者がいるが、足立区の税金はどれだけ使われたのか。
→ 平成28年（決算額）5億2900万円の税金が使われている。区外からの利用者が7割。
予約では区民を優先しているが、区民がなかなか使えない（使わない）ことが課題である。
リニューアル費用に24億円かかっている。元がとれるかより、足立区のイメージを変える意味での先行投資と考えた。
- ・どのようにプログラムを開発しているのか。
→ 区内の大学に関わってもらっている（例として、東京大学大学院の先生の協力）。
また、プログラム開発のための部屋を用意している。
- ・施設の目的であった、貧困による学力格差解消に結びついたのか。
→ どのように検証するか仕組みが、まだできていない。
子どもに直接支援するだけでなく、親の教育を考えていく必要があると感じている。

③ 障害のある方の生涯にわたる学習の充実をめざして ～さわやか青年教室の事例を通して～

- ・地域課題の解決としての視点について。
→ 特別支援学校の教員の派遣について、学校長が快諾してくれている。
地域に根差した学校としての意識が高く、地域課題の解決になっていると考えられる。
- ・ボランティア学生は、どのように募集しているのか。
→ さわやか千葉県民プラザの近くに大学があり、知り合いの教授を通じて募集している。
4月に学生向け説明会を実施している。
現在、15名程度の登録がある。
- ・中学校の特別支援学級在籍生徒が参加できるイベントを検討してもらえないか。
→ コンサート、イベント、学習成果を発表できる場について検討する。
- ・市町村へ支援プログラムを提供するには、障害者への理解を広めることが重要であると考え
るが、ぜひ支援プログラムを広げていただきたい。
→ 教員、家族以外の人と交流できる場の提供がもとにある。
様々な体験活動を通して、人間的にどう成長できるかが学習であるにとらえている。
「学習」の視点でいえば、現在のプログラムでは不十分であり事業停止の意見もあるが、
昨年度の大会での菊池実行委員長の言葉から、継続する意義を感じたところである。

④ 農を通じた自立型人間の育て方 ～福島県農業短期大学校～

- ・ 学生が直売所で販売をする事業は、どのような形で実施しているのか。
 - 授業の一環で行っている。
 - 効果としては、自分たちの作ったものに対して、お客さんの反応を直接見ることができたり、売り方を学んだりすることができることなどが挙げられる。
- ・ 異年代交流については、どのような形で実施しているのか。
 - 授業の一環で行っている。
 - 効果としては、生き生きとした表情で子ども達と交流したり、自分達で考えて行動する姿が見られたりしたことなどが挙げられる。
- ・ 保育を専門としていない学生には、どのような声かけをしているのか。
 - 子ども達に分かる言葉で話すように言っている。
- ・ 地元や地域のリーダーをどのように育てているのか。
 - 学生にボランティアをやらせたい。
 - 社会に役立つことで自己肯定感を育む。
 - 地域のつながりとして、外部に対して行事を開催する。
 - 地域の人に学校へ来てもらえるようにしたい。
 - そうすることで、多様な人々とかかわりがもてる。

<会場E 青少年教育>

① 継続できるエネルギーの源は何か? ～長期体験キャンプ27年の軌跡～

- ・ ボランティアの研修は、どの位の期間、どのような内容で行っているのか。
 - 市職員は5泊6日、教職員は学校裁量だが、概ね1年目は2～3泊、2～4年目は3～4泊、キャンプ長で5泊程度である。
 - 推進員は3～4回の集まりがある。
 - 事前研修は1回のみ。
- ・ 施設管理者の立場から言わせていただくと、鹿嶋市は大変素晴らしい事業を行っている。
- ・ 持続可能な素晴らしい体験活動である。実施する上での、アドバイスをお願いします。
 - 熱意と本気で成し遂げる意欲、これまで培われてきたコミュニケーション能力、脈々と受け継がれてきていること、が必要。
- ・ 「続ける」ことの素晴らしさがよく分かりました。発表ごくろうさまでした。

② チャンス フォー オール チルドレン in 赤城 ～生活習慣改善につながる体験活動プログラムについて～

- ・ 協力団体について。
 - 群馬県母子寡婦福祉協議会は、普段、カウンセリングや求人関係の仕事をしている。
- ・ 大変良い取組であると思った。再婚している家庭の子ども達も対象にした事業を、展開していけばいいのではないかな。

- ・募集するにあたって配慮することは。
 - 群馬県母子寡婦福祉協議会に登録している家族に案内を出している。同じ境遇の人達向けに出している。
- ・参加者の範囲は。また、他の県でもやっているのか。
 - 国立青少年教育施設は、どこでもやっているのではないかな。
 - 参加者は、ほとんどが群馬県の方だが、協議会に登録している方で、東京都の方も参加していた。

③ 幼稚園・保育園との連携による運動能力や体力の基礎を養う体験と場の提供について ～教育事業「ばんだいこどもの森キッズランド」の実践を通して～

- ・「こどもの森キッズランド」には、保護者向けのプログラムはあるのか。
 - 夜の子育てカフェ（趣旨説明、悩み相談等）というのがあり、リピーターが多い。
 - いもの苗植えをやってくれた方に、収穫も呼びかけている。
- ・青少年交流の家で、なぜ幼児期対象のプログラムをやろうと思ったのか。また、今後どうしていきたいのか。
 - 幼児期の体験活動等が大切であるから。
 - 「青少年交流の家」という研修施設のイメージを変えていきたい。
- ・協力園について。
 - 通常の中で、2つの幼稚園に協力してもらっている。
 - 本年度からスタートした。
- ・とても良い取組なので、国（国立青少年教育施設）の取組を県や市町村へ広げていけると良いと思う。

④ 地域力を生かした青少年教育への取組

～地域力向上事業「まるごとふくしま冒険キャンプ」を事例として～

- ・事後のフォローアップ研修（キャンプ2泊3日）の内容について。
 - 夏のメンバーとの再会。雪を活用した、冬場の活動。
 - 定期的にアンケートを実施している。
- ・募集について。
 - チラシは、福島全域の小学5・6年生に配付した。
 - 他県については、教育委員会のボックスを利用した。
 - 20名の募集に対して、70名の希望があった。
- ・昨年度14泊から、今年度8泊になった。検証結果を広めて欲しい。
- ・地域活動の見つけ方について。
 - 登山の講師は、「いわき海浜自然の家」の職員に情報を提供してもらい取り入れた。
- ・県立施設との連携を、今後も考えていって欲しい。

7 成果と課題

<成果>

- ・事例発表だけでなく、研究協議の時間を確保していることと、夜に情報交換会も実施していることから、発表者も含めた参加者間の交流が図れたとの意見が多かった。
- ・第1回大会から継続して参加してくださっている方が多くいた。
- ・今回も大学生が多く参加していたが、「いばらき輝く教師塾」の会場で広報したこともあり、生涯学習・社会教育を専攻している学生だけでなく、教員志望の学生の参加があった。
- ・3回目の開催ということもあり、準備から当日の運営までスムーズに行うことができた。参加者からは「対応がきめ細やかで、不安なく参加することができた」、「準備、おもてなし、運営、ありがとうございました。心地よく参加できました」などの声をいただいた。
- ・「次回大会も参加したい」という意見を、多数いただいた。
- ・小・中学生や小学校の校長先生が事例発表に参加した。会場で小学生が合唱し、その歌声に涙する人もいた。このような複数名での事例発表は今までになかったが、参加者からは好評で、良い発表例となった。
- ・前回大会に引き続き、高等学校の事例発表を取り入れたが「高校生のときに図書委員だったがこのようなことはしなかった。この活動は地域活性化にもなっている。自分にもそんなチャンスが欲しかった。とても素晴らしい活動でした」「県立高校と連携して、色々な活動ができることが分かりました。高校生がよく頑張っていました」など、高校生が発表を行うことが参加者にとって大きな刺激となったようである。今後も高等学校との関わりを続けていきたい。
- ・三村先生の特別講演では、SDGsというグローバルな話を、身近な話につなげて分かりやすく説明して下さった。「持続可能な開発にはローカルに行動することが大切だとの話は、社会教育につながっていると思った」などの声をいただいた。
- ・クロージングトークセッションは、登壇者を茨城県、栃木県から選出したことで、広がりをもたせることができた。また、登壇者両氏の熱のこもったお話が、学校教育現場での経験に基づいたもの、かつ地域の実態に合わせたもので説得力があり、学校と地域の連携について参加者一人一人が考えさせられる内容であった。「大変参考になった」、「すばらしい内容だった」という意見を多数いただいた。



＜課題＞

- ・ 今大会は開催日が、体育の日絡みの3連休ということで、市町村の運動会と重なっているところが多く、やむなく参加できなかったという方がいた。関東近県のイベント情報を把握した上で、開催時期を検討する必要がある。
- ・ 事例発表については、研究協議が盛り上がり「協議の時間が短かった」との意見が多かったので、1コマの時間を長くするなど、日程の検討が必要である。また、茨城県の事例発表者の配置についても同様である。
- ・ 「内から外へ」展開していくためにも、CSR活動に力を入れている民間企業と連携したり、大会提言（メッセージ）のようなものを出したりするなど、外への発信を意識した取組を考える必要がある。
- ・ 社会教育委員や公民館、コミュニティーセンター等職員など、社会教育専門職員の参加をさらに増やす必要がある。
- ・ メッセージボードについては、付箋紙を廊下に置いておき、移動・休憩の時間に書いていただいたため、記入の時間や場所が十分ではなくボードへの掲示が少なかった。事例発表の各分科会の中で参加者に付箋紙を配付し、研究協議の時間に記入してもらう。分科会終了後、移動する時に掲示していただくなど、改善が必要である。
- ・ 2日目（特別講演、全体会、クロージングトークセッション）の流れについては、内容や時間について検討が必要である。
- ・ 全体会については、ネットワークが広がったとの肯定的意見の反面、一方的に話をされている方もいて、なかなか思うように交流ができず残念だったといった意見もあり、夜に情報交換会を実施していることから、検討する必要がある。
- ・ 関東近県の実践研究交流会であることを意識し、他県からも実行委員を選出するなど、連携を密にする必要がある。そうすることで、他県からの参加者の増加が見込める。
- ・ SNSを活用した、双方向的な広報の充実を図る必要がある。
- ・ 大学生の参加者をさらに増やすためにも、事例発表や実行委員会に加えるなど、若者を呼び込む工夫が必要である。

参 考 資 料



社会教育の大きな波を起こそう! Let's raise a **Big Wave!**

第3回大会 実践研究 交流会 生涯学習・社会教育 関東近県

日 付 平成29年 10月7日(土)~ 8日(日)

会 場 茨城大学 水戸キャンパス

参加費 無料 (どなたでも参加できます)

- ・スーツでの参加は、できるだけご遠慮ください!
- ・ノーネクタイ普段着での参加をお願いしております!
- ・名札・名刺の持参をおすすめします!

最新情報

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会



主催 茨城県教育委員会 茨城大学社会連携センター 茨城県生涯学習・社会教育研究会
主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
後援 福島県教育委員会 栃木県教育委員会 群馬県教育委員会 埼玉県教育委員会
千葉県教育委員会 神奈川県教育委員会 国立青少年教育振興機構
茨城県社会教育委員連絡協議会 茨城県公民館連絡協議会
協力 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 茨城県教育庁社会教育主事会

持続可能な地域をつくるために、

「グローバルに考えローカルに行動する、社会教育の大きな波を起こそう」

この関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会は今年で3回目を迎えます。地域においてこれまでとは違う新たな構想と手法で社会教育の実践に取り組む団体・サークル等を発掘し、その活動を広く知って貰うことで可能性を広げるこの交流会は、一昨年、文部科学省「学びによる地域活性化プログラム普及・啓発事業」に採択されました。昨年の第2回交流会は、1都10県から延べ515名の参加者を迎え、盛大に実りある交流会となりました。

人口減少と少子高齢化が進む中で、今、全国で「地方創生」や「一億総活躍社会」のスローガンのもとに、活力ある地域づくりを進める様々な取り組みが展開されています。大事なことは、「学び合い・伝え合い」があってこそ、地域づくりの活動は人と人との信頼を増し、絆を強め、持続可能な地域づくりに発展するということです。

地域が抱える問題は日本中共通するものが多く、それだけ県域を越えて広く交流することで、大きなネットワークができ、より大きな力を得ることにつながるはずです。

今、中教審の「地域学校協働答申」や、それを受けた「次世代の学校・地域創生プラン」では、学校と地域の新しい連携・協働の在り方が強く期待され、さらに次期学習指導要領でも、「社会に開かれた教育課程」を実現するために、学校教育にも社会教育の活力を組み込む工夫が求められるなど、社会教育への期待が一層大きくなってきています。

今大会は、関東近県からの20の実践事例の発表・討論、参加者の出会いと対話の場となる情報交換会、全体会、講演会と盛り沢山です。今年は、茨城大学学長の三村信男先生が、地球規模で進む気候変動というグローバルな問題の解決には、私達が地域というローカルな場で学び、手をつなぎ、行動することが大事だとわかりやすく解説して下さいます。

本大会が、特に地域課題に取り組む学びと実践に汗をかいている多くの仲間たちの集いの場となるように、沢山の皆様のご参加を心からお待ちしております。



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員長／茨城大学名誉教授 菊池 龍三郎

DAY 1

10月7日(土)

《オープニング》 13:00～(教育学部棟)

《事例発表》 14:00～(教育学部棟各教室)

① 14:00～14:45 ② 14:55～15:40 ③ 15:50～16:35 ④ 16:45～17:30

《情報交換会&第3回大会交流会》 18:15～(学生協食堂)

【学校・家庭・地域の連携①】

	発表テーマ		発表者
会場 A	① 子どもたちの笑顔と輝きを求めて ～ぬかだサタデースクールの実践から～	茨城	ぬかだの子どもを守り支える会 会長 成田 敏行
	② 栃木市型教育システム「とちぎ未来アシストネット」 ～ふるさとと風土で育む人づくり・まちづくり～	栃木	栃木市教育委員会事務局生涯学習部 生涯学習課 副主幹兼社会教育主事 早乙女 豊
	③ 公民館・コミュニティ施設を利用した学びでつながる寺子屋事業	千葉	(公財)四街道市地域振興財団 四街道市立四街道公民館 施設長 福本 由香里
	④ コミュニティ・スクールでふるさと栗橋とともにある学校をめざして ～子どもたちが育ち 保護者や地域の方々が輝き ひとがつながるために～	埼玉	久喜市立栗橋南小学校 教頭 朝武 紀雄

【学校・家庭・地域の連携②】

	発表テーマ		発表者
会場 B	① 北茨城市立図書館との連携による学び ～高校生の実践より～	茨城	県立磯原郷英高等学校 教諭 堀 美智子
	② 今、学校・家庭・地域が子どもたちのためにできること 「チャレンジ手帳ちよだっ子」の実践から ～2050年の大人づくり～	群馬	千代田町社会教育委員会 委員長 柿沼 正博
	③ 学校と地域が一体となった魅力ある学校づくりを目指して 「おくのキャンパス コミュニティ・スクール」の取組	茨城	牛久市立牛久第二中学校 教諭 仲澤 潤
	④ 地域から学校を核とした、新たな人・街・学びへの取組 ～挑戦する学校は、元気な街をつくる源～	千葉	みらいスマイルコミュニティーズ みどりが丘小学校区 代表 鈴木 介人

以下、ご了承ください。

※日程や会場、発表テーマ、発表者等については、変更になる場合があります。

※昼食等については、第1日目は、学生協が【11:00～13:30の間オープン】しておりますのでご利用ください(当日は混雑が予想されます)。

【地域課題の解決に向けた取組①】

	発表テーマ		発表者
会場 C	① 藪（ケ）の再生「鯨ヶ丘商店会の活動」 ～県北芸術祭（アート）と商店街の関係～	茨城	鯨ヶ丘商店会 会長 渡辺 彰
	② コミュニティカフェは地域の要	埼玉	ヘルシーカフェのら（合同会社のら） 代表社員 新井 純子
	③ 冒険遊び場の運営を通じた地域との関わり	神奈川	ドリームプレイウッズ管理運営委員会 委員長 澁谷 敏夫
	④ 知的障害者の生涯学習と生きる力について ～千代田区日曜青年教室・自主サークル 「ヘルマンハーブちよだ」の活動から～	東京	千代田区地域振興部生涯学習・スポーツ課 生涯学習指導員 工藤 真由美

【地域課題の解決に向けた取組②】

	発表テーマ		発表者
会場 D	① コロッセで街おこし ～中心市街地活性化策として～	茨城	龍ヶ崎まいんコロッセ 代表 吉田 京子 龍ヶ崎市商工会 事務局長 大竹 昇
	② 青少年の多様な体験活動の場の提供 ～子どもの体験施設「こども未来創造館」の企画から運営～	東京	足立区教育委員会事務局子ども家庭部 青少年課 青少年・家庭教育係長兼 社会教育主事 村上 長彦
	③ 障害のある方の生涯にわたる学習の充実をめざして ～さわやか青年教室の事例を通して～	千葉	さわやかちば県民プラザ事業推進課 主査 福地 健太郎 副主幹 遠山 宗利
	④ 農を通じた自立型人間の育て方	福島	福島県農業総合センター農業短期大学校 教務主任 齋藤 義雄

【青少年教育】

	発表テーマ		発表者
会場 E	① 継続できるエネルギーの源は何か？ ～長期キャンプ体験27年の軌跡～	茨城	鹿嶋市教育委員会社会教育課 係長 水野 喜行
	② チャンス フォー オール チルドレン in 赤城 ～生活習慣改善につながる体験活動プログラムについて～	群馬	国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 梁河 昌彦
	③ 幼稚園・保育園との連携による運動能力や体力の基礎を養う 体験と場の提供について	福島	国立磐梯青少年交流の家 企画指導専門職 葛岡 丈治 企画指導専門職 大高 靖行
	④ 地域力を生かした青少年教育への取組 ～まるごとふくしま冒険キャンプ2017～	福島	国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 西村 孝幸

情報交換会 & 第3回大会交流会

DAY2
10月8日(日)

《特別講演会》 9:30～（教育学部棟）
《全体会》 11:00～（教育学部棟）
《クロージングトークセッション》 11:30～（教育学部棟）

時間	内容	会場
9:30～11:00	特別講演 国連持続可能な開発目標（SDGs）がめざすもの ～世界と地域はどうつながっているのか～ 国立大学法人茨城大学 学長 三村 信男 先生	教育学部棟
11:00～11:30	全体会（シェアリング：関係者間での出会いと対話）	

クロージングトークセッション

〈コーディネーター〉：木村 競氏（茨城大学副学長・全学教育機構長）
〈登壇者〉：小沼公道氏（茨城県高萩市教育委員会教育長）
井上昌幸氏（栃木県教育委員会事務局生涯学習課課長補佐）

FAX送信

FAX: 029-301-5339

[茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当] 宛て

第3回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 【参加申込書】

ふりがな					性 別		
氏 名					男 ・ 女		
所 属			役職				
連絡先	電 話 :						
	電子メール :						
大会の出欠等 ※ 希望する事項に○をつけてください。							
第1日目 10月7日(土)	大学生協の利用(昼食)		希望あり ・ 希望なし				
			参加 ・ 不参加				
	事例発表	①14:00~14:45	会場	A	B	C	D E
		②14:55~15:40	会場	A	B	C	D E
		③15:50~16:35	会場	A	B	C	D E
④16:45~17:30		会場	A	B	C	D E	
※ 大学周辺には、飲食店等が少ないので、ご承知ください。		情報交換会	参加 ・ 不参加 ※ 情報交換会は、会費制です。【会費：3,000円】				
第2日目 10月8日(日)	特別講演		参加 ・ 不参加				

- ※ 個人情報は、本大会に関すること以外の目的では使用いたしません。
 ※ 当日の様子(写真、動画等)につきましては、ホームページ(SNSを含む)や報告書等で使用することをご了承ください。
 ※ チラシ等のブース出店を希望する団体については、個別にご連絡ください。
 ※ 宿泊については、個人でご対応ください。

《申込締切》 平成29年 9月15日(金)

《参加方法》 参加申込書を メール・FAXで送付 してください。

《申込み・問合せ先》

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当

✉ shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp

✉ FAX: 029-301-5339

TEL: 029-301-5318 〒310-8588 水戸市笠原町978番6

《会場案内》

茨城大学水戸キャンパス

〒310-8512 水戸市文京2-1-1

JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行き(栄町経由)」に乗車後、「茨大前」で下車。

(バス乗車時間は、約30分です)

※ できるだけ公共交通機関をご利用ください。



第3回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会実行委員名簿

※組織・職名はH29.4.1時点

No	役職等		氏 名	組織・職名	備考
1	委員長		菊池 龍三郎	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 (茨城大学名誉教授)	
2	副委員長		池田 馨	茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長	
3			長谷川 幸介	茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長	
4			照井 康郎	茨城県教育庁総務企画部 生涯学習課長	総務担当
5	委員	大学関係	西野 由希子	茨城大学 社会連携センター 副センター長	
6			高松 尋一	茨城大学 社会連携センター 地域連携課長	
7			三浦 東	茨城大学 社会連携センター	
8		学識経験者	木村 競	茨城大学 副学長・全学教育機構長	
9			坂井 知志	常磐大学 コミュニティ振興学部 教授	
10			伊藤 真木子	常磐大学 コミュニティ振興学部 准教授	
11		社会教育関係	儘田 茂樹	茨城県社会教育委員連絡協議会 会長	
12			富山 かなえ	筑波総研株式会社	
13			佐藤 孝弘	茨城県生涯学習・社会教育研究会	
14			大月 光司	茨城県生涯学習・社会教育研究会	
15			横山 典男	茨城県生涯学習・社会教育研究会	
16			栗田 将夫	茨城県生涯学習・社会教育研究会	
17		県関係	佐々木 英治	水戸教育事務所学校教育課 主任社会教育主事	
18			熊谷 智仁	水戸生涯学習センター 企画振興課長	
19			志摩 邦雄	県北生涯学習センター 副センター長	
20			法堂 泰明	県西生涯学習センター 次長	
21		市町村関係	海老原 誠	笠間市立教育委員会 指導室長	
22			根本 聡美	潮来市教育委員会 社会教育主事 (派遣社会教育主事会代表)	
23	アドバイザー		國府田 大	国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 専門調査員	

監 事	滝 正利	滝労務管理事務所 特定社会保険労務士	
監 事	市村 志保	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 副参事兼総括課長補佐	

<事務局>

事務局長	平山 健治	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 主査兼振興担当係長	
事務局次長	前原 仁	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 学習支援担当課長補佐	
事務局	横濱 元己	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当主任社会教育主事	
事務局	関 正貴	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当社会教育主事	
事務局	久保田 将彦	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 学習支援担当指導主事	
事務局	大出 晃司	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当社会教育主事	
事務局	高橋 奈菜子	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 管理担当主事	

第3回大会 運営スタッフ（事例発表会場）

茨城県水戸教育事務所	主任社会教育主事 主 査 主 査	佐々木 英治 中島 康弘 磯田 洋
茨城県県北教育事務所	主任社会教育主事	阿部 裕美
茨城県鹿行教育事務所	主任社会教育主事 主 査	成田 悦子 米川 仁
茨城県県南教育事務所	主任社会教育主事	若山 隆男
茨城県県西教育事務所	主任社会教育主事 主 査 主 査	岡崎 孝夫 海老原 孝之 坂入 幸子
笠間市教育委員会	社会教育主事	根本 拓
常陸大宮市教育委員会	社会教育主事	徳増 香織
那珂市教育委員会	社会教育主事	富山 覚志
茨城町教育委員会	社会教育主事	小林 博
東海村教育委員会	社会教育主事	吉成 大秀
日立市教育委員会	社会教育主事	鴨志田 誠
高萩市教育委員会	社会教育主事	佐藤 みゆき
鹿嶋市教育委員会	社会教育主事	箕輪 直
鹿嶋市教育委員会	社会教育主事	石原 国星
潮来市教育委員会	社会教育主事	根本 聡美
神栖市教育委員会	社会教育主事	根本 重巳
鉾田市教育委員会	社会教育主事	近藤 由美
土浦市教育委員会	社会教育主事	和田 聡史
龍ヶ崎市教育委員会	社会教育主事	木村 忠夫
牛久市教育委員会	社会教育主事	高森 志保
稲敷市教育委員会	社会教育主事	富永 正弘
つくばみらい市教育委員会	社会教育主事	荒井 克彦
阿見町教育委員会	社会教育主事	新木 圭彦
結城市教育委員会	社会教育主事	須藤 勝繁
下妻市教育委員会	社会教育主事	鈴木 勝久
常総市教育委員会	社会教育主事	木村 弘幸
境町教育委員会	社会教育主事	竹村 靖
茨城県水戸生涯学習センター	企画振興課長 社会教育主事 社会教育主事 社会教育主事 社会教育主事	熊谷 智仁 渡邊 和重 大山 邦治 山田 聡
県立さしま少年自然の家	社会教育主事	小堀 隆弘 柴原 尚之

「手帳」に記録し経験値高めよう

学校外での体験活動を促そうと、群馬県千代田町教委は小学生を対象に「チャレンジ手帳」を発行、1年間を通してスポーツ・文化・ボランティア・家事手伝いなど、体験したことを書き込む仕組みを設けて4年目を迎えた。年度末には保護者と教員に加え、町の社会教育委員が小学生全員の手帳に目を通し励ましの一言を書き添える。始めてから、土曜日に町教委が設けている催しへの参加が増える傾向にあるなど、子どもが社会教育で学びを深めるようになってきている。

この事業はもとも町、町の社会教育委員が考え出した。社会教育委員でつくる委員会が委員長を務めている柿沼正博さんが7日、水戸市で開かれた社会教育関連の会合で報告した。

群馬・千代田町

この5分野に分け、それぞれ10回ずつ体験したことを書き込む欄がある。児童が書き込むと、その活動の指導者などから、はなをもちろ。各分野の欄に書ききれなかった場合の予備欄もある。

スポーツ、文化、ボランティア、家事手伝い

校外の体験活動を1冊に

ただ、テレビ観戦、家庭生活では、食器洗いは認めていない。文化、い、トイレ掃除、炊事を積んでレベルアップ活動には学習塾をはじめなど何でもいとして、め、そろばん塾などの習い事でも構わない。

町教委では小学生に育むことを狙った。成する。柿沼さんは千代田町で生まれ育ち、企業経営の傍ら、子ども会の役員などを務めてきた。

記録を蓄積していく手帳の発行に行き着くと話した。

地域の活力向上「諦めぬ人」いる

スポーツ	
1 月 日()	2 月 日()
スノーボード少年大会	スイミング
千代田少年野球	剣道大会
3 月 日()	4 月 日()
日本VS成神学園	スポーツ少年大会
東武ドーム	県大会
文化活動	
1 月 日()	2 月 日()
学習塾	おもしろ科学教室
読書会	

この手帳の使い方

この手帳は、児童が体験した活動を記録することを目指しています。学習塾などや体験したことなどを必ず記入して10回をもちろ。記入は、指導者など大人の方または、おうちの方でもOKです。自分からチャレンジしてみたい、おうちの人に促されてから、学習塾に一度は先生に見てもらいましょう。最後に、自分がどれくらい一年間で成長したかを自分で振り返ってみましょう。

7日の報告を聞いた大学生は、「お手伝いを合めたことで(世帯間の)差が出ないことがよい。はんこを通して、親子のコミュニケーションになる」などと感想を述べていた。

この大会の実行委員会委員長を務めている菊池龍二郎さん(茨城大学名誉教授)は開会に当たり、「少子高齢化、過疎化などにより地域に活力がなくなってきた。数年前は諦めかけた。しかし、全国で頑張っている人が増えていくといわれた。あらためて見ると、諦めないで危機感を持ちながら地域で頑張っている人がいる」と話した。

地域を支える PTA 社会教育 民生・児童委員 地方議会

facebook でつながろう！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のページは
QR コードからどうぞ！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会
第3回大会 実行委員会

<事務局> 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当
〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番6
E-mail shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp
TEL 029-301-5318 FAX 029-301-5339